

甲南Today

2015 Mar. NO. 47

甲友のリレーションで、未来を紡ぐ

<特集3>

井野瀬 久美恵

文学部教授 / 日本学術会議 副会長

走り続けるスーパーレディ
原動力は「愛」。

「甲南学園 by AREA」 刊行記念特集

甲南生から見た

「甲南学園 by AREA」

自分たちの甲南大学を見つめ直す

真崎 克彦

なるほど！甲南アカデミア
マネジメント創造学部教授

<特集1>

第十七代
甲南大学長

長坂 悦敬

巻頭スペシャルインタビュー 変革する甲南大学

伝統とは、革新の連続のつづき。

<特集2>

KONAN×Sports
躍動する甲南のアスリート

甲南Today NO.47

2015年3月20日発行 [発行] 甲南学園広報部 〒658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9-1 TEL. 078-431-4341 (代)

ONLY ONE vol.18
—個性を力へ—

「真の教育とは、人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重して各人の天賦の才能を引き出すことである」と提唱した、甲南学園創立者 平生飢三郎。そんな平生の想いを込め、今、甲南学園の光り輝いている学生・生徒をご紹介します。

SHE'S-on bass SHINGO HIROSE

～多くの人に共感を呼ぶ音楽を届けたい～

シンプルなメロディが心を潤す
ピアノロックバンドで活躍。

2012年9月、広瀬さんはアマチュアバンドの登竜門といわれるフェスティバル「閃光ライオット」のステージ上にいた。それは、彼がベーシストとして参加するバンドSHE'Sの運命を変えたステージだった。3000人の歓声を浴び、「今までにない高揚感の中で、初めてプロを意識した瞬間でした」と振り返る。父親の影響で音楽が好きになり、中学でアコースティックギターと出会い、高校時代はベーシストに

転向。「目立たないけど、なくてはならない」ベースギターの魅力にはまり、バンド活動に明け暮れ、ライブハウスを中心に頭角を現してきた。

ライブ仲間に誘われてSHE'Sを結成したのは、大学入学前のこと。「ピアノロックをやろうと言われて」。シンプルなメロディを聴かせる音楽づくりが新鮮で可能性を感じました。それからCDの自主制作を始めた。親しみやすいメロディと誰もが一度は抱く恋心を歌うSHE'Sの音楽は、10代の心をストレートにつかむ。ライブ会場では、涙を流して聴き入るファンの姿もあるという。「リアルな反応を感じられるライブが楽しくてたまりません。プロを意識し始めてからは、もっとたくさんの人に聴いてもらうにはどうしたらいいのか、真

3000人の歓声、高揚感の中「プロ」への実感が胎動する。

剣に考えるようになりましたね。」音楽事務所との契約が決まり、創作環境が整い、クオリティを追求する意識は高まる中、2014年春には民放テレビ局の音楽情報番組エンディングテーマに採用され、7月には初の全国流通アルバムを発表するなど、SHE'Sの勢いはとどまることを知らない。

教授 友人 岡本の街も
アーティスト活動を応援してくれる。

文学部で日本文学を専攻したのはことが好きだから。「純粋に

興味あることを学びたい」という欲求に従った。あつかうジャンルの広さに引かれて木股知史教授のゼミへ。「卒論の題材は太宰治の『燈籠』です。太宰は非日常的な表現で独自の人生観を描いている作家。その表現を分析していくことが面白い」。

バンド活動と学業の両立は大変だが、「学生の本分を大切にするのは当然のことです」ときっぱり。中途半端に終わらせて学生の甘えととられたくない。「頑固なんです。やると決めたらやるし、やりたくないことは最初からやらない。これは

バンドでも大学生活でも同じ。勉強もやり抜けば自分の財産になると思います」。研究に打ち込めるように導いてくれる木股教授は、よく理解者の一人。ライブに足を運んでくれる友人の存在も励みになっている。

「授業の空き時間は岡本を歩き回り、面白そうなお店をのぞいています。海も山も近く、街も刺激的な岡本は、感性を磨いてくれる環境です」。

この春にはSHE'Sとして二度目の全国流通盤となる2ndアルバムをリリース(予定)。「1st以上の自信作に仕上がります」。

ます」と言い切るのは、夢があるからこそその強さだろう。「ライブハウスからホールへとステップアップし、メジャーデビューすることが目標です。より多くの人の心に響く音楽を届けて、感動を共有したい」。まっすぐな視線の先は、確かな未来を見据えている。

ひろせ しんご
広瀬 臣吾さん

甲南大学 文学部 4年次

小学生のころからビートルズやビリー・ジョエルを聴いていた音楽少年。ピアノロックバンド「SHE'S」のベーシストとして活躍し、2014年1月に1stアルバム「WHO IS SHE?」を全国発売。太宰治を愛する文学青年でもある。



インターネットで甲南へ <http://www.konan-u.ac.jp>

SHE'S ワンマンライブ決定 6月27日(土) 大阪 心斎橋JANUS

甲南生 から見た

「甲南学園 by AERA」

～ 自分たちの甲南大学を見つめ直す ～

文学部社会科学の講義で採りあげられた「甲南学園 by AERA」。この本の制作過程を学ぶだけでなく、自分たちの考える誌面企画を立案するため、“模擬編集会議”を開きました。この会議を通じて学生たちが学んだこととは？



19

「なるほど!!」
甲南
アカデミア



マネジメント創造学部教授
まさき かつ ひこ

真崎 克彦

よりよき地球社会の実現に向けて、私たちは何を学び、どのように行動すべきか。国際開発協力の最前線で実務と研究を重ねてこられた真崎克彦教授が解説します。

17

他動詞だけでも、自動詞だけでもない
国際協力と体験学習の
先にある未来へ。

KONANスポーツ元気プロジェクト

KONAN 応援ツアー2014



2014年度に実施した、体育会アメリカンフットボール部と体育会バレーボール部の応援企画の様子についてレポートします。

07

オール甲南の集い
HOMECOMING DAY

開催報告 2014.11.23 sun.

08



アートにエンターテインメント、盛りだくさんのプログラムでお楽しみいただいた“集い”の開催報告です。



伝統とは、
革新の
連続のこと。

第十七代 甲南大学長 なが さか よし ゆき 長坂 悦敬

2014年8月、第17代甲南大学長に就任した長坂悦敬経営学部教授のもと、甲南大学は、変革のステージへと動き始めています。ポイントは甲南大学にしかできない教育の実現。来るべき創立100周年に向けて始動したさまざまな取り組みを、長坂学長自ら紹介します。

03

<特集1>

巻頭
スペシャルインタビュー
変革する
甲南大学

卒業生が後輩に語る

震災の記憶



自ら被災した卒業生を招き、2回にわたって当時の記憶について語っていただいた講演会。震災後に生まれた今の甲南高等学校・中学校の生徒たちは、あの災害をどうとらえたのでしょうか。

阪神・淡路大震災から
20年、
あの体験を決して
風化させない。

23

第一線で活躍する卒業生たち

It's KONAN
Style



21

走行距離77万キロは単なる通過点。

VW BEETLEと駆ける、 夢の軌跡は果てしなく。



いなもり まさひろ
稲森 正宏氏

1台のビートルを愛し続け、“月と地球の往復距離!”を走破した稲森正宏氏。77万キロの軌跡をクローズアップします。

甲南Today

from the editorial staff

No.47
2015
March

今号の見どころ

今号では、新たに就任した長坂学長のもとスタートした甲南大学の革新について特集します。また、日本学術会議副会長職を任命された井野瀬教授にお話を伺い、人となりに迫りました。ほかにもスポーツ分野で活躍する在学生・卒業生の躍動など、盛りだくさんの内容でお届けします。

平生鈺三郎
日記刊行記念シリーズ

平生鈺三郎と 灘購買組合

灘購買組合を設立した那須善治と、それを支えた平生鈺三郎について、経済学部 藤本建夫教授が言及します。

27

[平生記念館開館40周年記念企画]

平生先生と 「拾芳会」の 記憶

平生記念館開館40周年を記念して、「拾芳会」のご家族に、当時の記憶を振り返っていただきました。

26

高 中 TOPICS

学校生活をよりよくするために情熱を捧げる生徒たちの活動記録。

みんなのために、みんなで
取り組む自治会活動。

25

ONLY ONE 裏表紙

シンプルなメロディで人気を博するピアノロックバンドのベーシストでありながら、文学を愛する学生を紹介します。



KONAN FORUM

卒業生 水野正人氏の叙勲をはじめ、甲南学園の感謝の気持ちをお伝えしたサロンコンサートの開催、甲南アスリートの受賞報告など、盛りだくさん。新たに着任、退任した教職員の声も紹介します。

29



走り続けるスーパーレディ 原動力は、“愛”。

甲南が誇る名物教員の一人、井野瀬教授。昨秋、わが国にとっても重要な組織である“日本学術会議”の副会長に就任しました。重責を担いながら、どのように仕事をすすめているのか?多忙を極めつつも明るく、何事にも全力を出し切れるのはなぜなのか?井野瀬教授自身が語ります。

13

<特集3>

井野瀬久美恵
文学部教授/日本学術会議副会長

KONAN
Sports

Ultimate
Yacht Racing
Baseball



09

<特集2>

躍動する
甲南のアスリート



日本代表として世界に挑戦する学生アスリートや、社会人野球日本一という栄光をめざし、ひたむきに努力を重ねる卒業生。甲南大学という環境を生かし、充実したアスリート人生を歩む4人の躍動を紹介します。

変革する甲南大学



なが さか よし ゆき
長坂 悦敬

大阪大学工学部卒業。同大学院工学研究科修士課程修了。博士(工学)。2001年甲南大学経営学部助教授、2003年同学部教授。その後、フロンティア研究推進機構長、経営学部長、学長補佐、国際交流センター所長、ビジネス・イノベーション研究所長などを歴任し、2014年8月第17代甲南大学長に就任。

2014年8月、第17代甲南大学長に長坂悦敬 経営学部教授が就任しました。今、甲南大学は、新たな学長のもと、変革のステージへと動き始めています。

そのポイントは、「甲南大学らしさ」を追求した、甲南大学にしかできない教育の実現です。

そのために、「KONANU-WAY」「KONANプレミアムプロジェクト」など、

さまざまな取り組みがすでにスタートしています。

「伝統とは、革新の連続」と静かに語る長坂学長。

その行動力とリーダーシップの先に、どんな甲南大学の姿を見つめているのでしょうか。

甲南Todayでは、巻頭特別企画として長坂学長の視線の先にある「甲南大学の未来像」に迫ります。

「甲南らしさ」を追求し 甲南大学にしかできない 変革に挑む

約1世紀におよぶ甲南の歴史。それは創立者 平生鈺三郎の理念を基本に教育の質の向上に取り組みつづけてきた不断の歩みにほかなりません。「伝統がある」ということは、いかなるときも自らの原点を見失うことなく革新を連続させてきた証です。この伝統に根ざした革新の連続こそが、他のどの大学とも異なる「甲南らしさ」を豊かに醸成してきました。

それでは、「甲南らしさ」とはいったい何なのでしょう。例えば、神戸という立地はその一つです。国際都市神戸にあり、本物の文化や進取の気質に触れることができる恵まれた教育環境

は、自由と自立の精神、品格を有するさわやかな学生気質が育まれる土壌になっています。

私は数ある「甲南らしさ」の中でも最も重要なものは「融合力」だと考えています。「融合力」とは、複数のものをただ統合するのではなく、混ぜ合わせて新たなものを生み出す力。ネットワーク力(つながる力)、やり遂げる力(行動力)、新しいものを生み出す力(創造力)など、ものごとをプラスアルファしていく能力を備えたトータルな人間力が「融合力」です。

その融合力を、幅広い教養・確かな専門性の裏付けをもつて、さらに高めていくことが「甲南らしさ」の追求になります。そして甲南大学にしかない魅力を伸展させ、明確にすることができ、ます。その実現に向けて目標を掲げ、

行動計画を立て、推進していくこと、これが本学の取り組む変革の第一歩になります。

変革を紡ぐ甲南大学 その行動規範を定めた 「KONANU-WAY」

「甲南らしさ」を明確にするために、自分たちの姿を一つの言葉で表現しようと、「KONANワンワードプロジェクト」に着手しました。220のキーワードの中から11の言葉を厳選。全学インターネット投票を実施し、約3600票の投票が行われました。その結果、無限の可能性という意味を込めた「KONAN INFINITY(インフィニティ)」が選ばれました。コミュニケーションマークも新たに

伝統とは、 革新の連続のこと。



身につけることを期待しています。

「KONAN スマート・ラーニングプロジェクト」では、アクティブラーニングが一つの柱になっています。これからの授業は、学生が講義を聴くだけではなく、グループワークや共同議論など、ワークショップを取り入れた展開が重要になります。文学部・経済学部から提案されたプロジェクトに対応して、5号館の二つの教室（523教室・525教室）をグループワーク仕様に改装しました。4月からはこの教室を活用し、レベルアップした授業が展開されることを期待しています。

また「KONAN スーパー人材育成プロジェクト」では、成績評価やGPAでは表すことのできない学生の力を可視化するため「KONAN サーターティファイケート」の準備を進めています。

作成。新年度以降、学生・教職員が「甲南らしさ」を共有し、無限の可能性にチャレンジする姿勢を表す旗印として広く発信していきます。

そして「甲南らしさ」を実現するため、学生・教職員をはじめ甲南大学にかかわる全員が心に留めるべき行動規範を定めました。それが「KONAN U・WAY」世界に通じる人物をめざして「です」。

その第一は、「個性あるキャリア創生力を涵養する」ということです。学生一人ひとりの個性や才能を生かし、将来への希望を生み出すこと。そのためには、他者を敬うこと、礼儀を重んじること、健全な常識を育むことも必要になるでしょう。

第二は、「つなげる力・つながる力を育む」です。「つなげる力」とは、人と人をつなげるリーダーシップを発揮できる力。「つながる力」とは、人々と協力して未来を切り拓く共働互助の力。これらを育むことをめざします。

そして第三は、「正志く強く朗らかに」です。学生たちを取り巻く環境はさまざまに変化します。しかし、どのような環境でも明るさを失わず志を貫き、大局を見据えて的確かつ柔軟に対応していくことを心がけること。

これら3つの行動規範を日々の活動の中に浸透させることが、「甲南らしさ」のもとになるのです。

作成。新年度以降、学生・教職員が「甲南らしさ」を共有し、無限の可能性にチャレンジする姿勢を表す旗印として広く発信していきます。

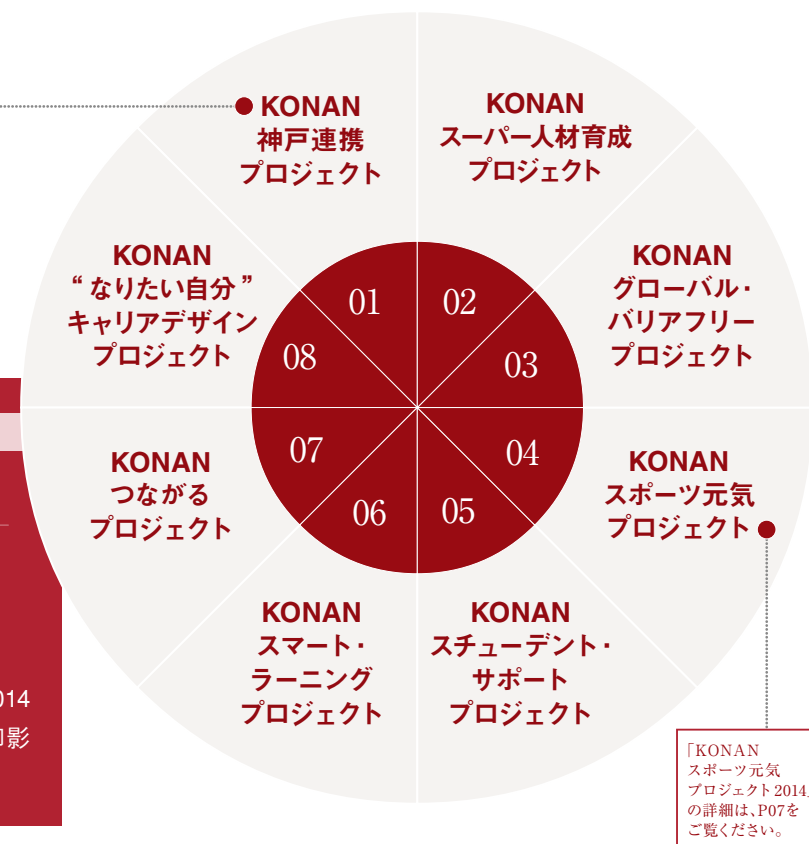
甲南らしさと より質の高い教育力の実現 そして、甲南新世紀へ

教育の現場で「甲南らしさ」を実現する。それは足もとを見つめ直すことから始まりました。学部やセンターなど、各部署の取り組みの中には、個性的で

魅力のある取り組みがたくさんあります。しかし残念ながら、それらは個々単独の取り組みとしてとどまっていた。これらを可視化し、融合し、発展させたい。そのための取り組みが、「KONAN U・WAY」です。

学長に就任した直後でしたが、学部・

KONAN プレミアプロジェクト

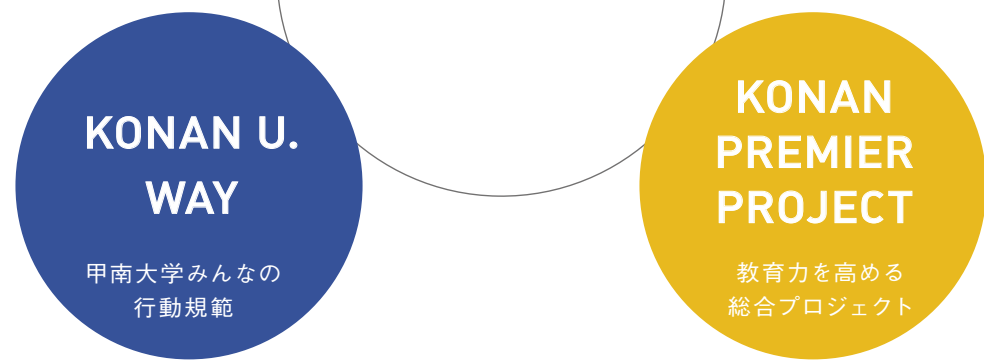


★★★ KONAN神戸連携プロジェクト

KONAN UNIVERSITY × 御影高杉

「KONAN 神戸連携プロジェクト」の一つとして、2014年度の学位授与式で、神戸のフランス菓子店「御影高杉」による限定スイーツが卒業生に贈られました。

“見つかる、きみのなかの無限大”



例えば、海外留学を経験し国際的なプロジェクトにも参加している学生がいれば、それは甲南らしい教育の成果です。それを「KONAN サーターティファイケート」によって認証します。

多数あるプロジェクトの詳細は、次号以降で順次、紹介していきます。

さらに、創立百周年に向けては、プレミアプロジェクトの成果を吸収しながら骨太な柱を打ち立て、圧倒的な教育力の実現をめざします。その具体的な姿を「教学新機軸」として打ち出すべく、目下、タスクフォースを編成し、精力的に検討を進めています。来年度にはその具体的な姿を示す予定です。

めざす改革は成長戦略ではなく発展戦略にもとづいています。つまり、量の拡大ではなく質の向上。甲南の伝統、卒業生のネットワーク、教職員の力を結集し、中規模総合大学としての特長を確固たる強みへとつなげ、甲南にしかできない圧倒的な教育力を実現したい。また、人間としての品格と融合力を身につけ、世界に通用する人物を世に送り出す生き生きとした「学びの場」を次代へつないでいきたい。そのための革新の一步を力強く踏み出し、新たな伝統を紡いでまいります。

センター等と呼びかけたところ、わずか1か月余りで60を超える提案が集まり、甲南の持つ底力を実感しました。大学という学びの「場」の魅力をより一層高めるため、多数の部局にまたがる44のサブプロジェクトを8つのプロジェクトに編成しました。

プロジェクト・マネージャーは主に執行部のメンバーが務め、学部長など各部署の長がサブプロジェクトリーダーとなります。甲南大学がひとつのチームとなって推進する、従来になかったスタイルのプロジェクトです。すでに動き出したプロジェクトの中から、いくつかを選んで紹介します。

まず「KONAN つながるプロジェクト」では、関西実業界をはじめ各界で活躍する錚々たる卒業生や岡本商店街といった地域と連携します。学生と甲南ファミリー、地域がつながり融合することによって新たな価値の創造をめざすものです。

次に「KONAN グローバル・バリアフリープロジェクト」。2号館1階を「グローバルゾーン」（仮称）として整備する計画が進行しています。今春には国際交流センターが移転し、後期には日本語を使わずに留学生と交流する「Language LOFT」（仮称）がオープンします。甲南の学生と留学生とが交流するなかで互いに新しい学びと発見が生まれること、学生が語学力を磨き上げて海外留学へと向かう力を

KONANスポーツ元気プロジェクト

KONAN応援ツアー2014

報告
レポート

「KONANプレミアプロジェクト」の1つである、KONAN応援ツアー。スポーツの活動を通じて大学全体を元気にしよう!という取り組みの1つとして、他の企画に先駆けて実施しました。

今回は、学習院大学定期戦(バレーボール部)と、公式戦(アメリカンフットボール部)を観戦。学生やご父母、教職員など、それぞれ80名超の方々に参加していただきました。

第59回学習院大学定期戦

— 甲南大学体育会 バレーボール部 —

01.NOVEMBER 2014

1956年から続く、学習院大学との定期戦。総合種目でこんなに長く続いている定期戦は、他にはありません。体育会以外の学生にも学習院戦の存在を伝えるため、会場校が甲南大学だったバレーボール部の試合観戦を実施しました。長坂悦敬学長や森元勤治学長補佐、稲田清一図書館長をはじめ、摂津会会長の水野正人様にも応援に駆け付けていただきました。たくさんの方からの声援を受け、3-0で甲南は見事勝利をおさめました。



関西学生アメリカンフットボール2部リーグ 大阪体育大学戦

— 甲南大学体育会 アメリカンフットボール部 —

19.OCTOBER 2014

甲南大学にとって、この試合は今シーズンの成績を左右する、非常に重要な試合でした。甲南に勝利を呼び込むためにも、応援は必要不可欠。応援ツアー参加者の力を少しでも貸してほしいと、チアリーディング部が応援方法を教えてくれたり、アメフト部OBが簡単なルール解説をしてくれたりと、アメフト関係者もこの企画を盛り上げるため協力していただきました。試合開始とともに、観覧席からは力いっぱい声援を送りました。フィールドにもその思いが伝わったのか、結果は13-6で甲南の勝利! その後の岡山大学戦も良い勢いに乗って、38-5で勝利を掴みました。



そして2015年、プロジェクトは加速する
応援するのはあなただ!

2015年度も開催します!

KONAN応援ツアーは、実施時期や回数をさらにグレードアップして、2015年度も実施します。皆さんの参加をお待ちしています!

(詳細は甲南大学HPで告知予定です)

体育会クラブを盛り上げよう!

体育会クラブの紹介や戦績等をホームページ「甲南倶楽部」で随時掲載しています。応援ツアー以外の種目もぜひ応援に来てください! (施設等の都合上、試合観戦できない競技などがあります。詳細は学生部へお問い合わせください)

甲南倶楽部

検索

摂津祭と同時開催になって2回目の「オール甲南の集い2014」が昨年11月23日に開催されました。千名を超える卒業生や地域のみなさまにお越しいただき、これまで以上に楽しいイベントとなりました。

おたのしみ抽選会・オリジナルグッズプレゼント

甲南オリジナルグッズのプレゼントや、豪華賞品が当たる「おたのしみ抽選会」を開催しました。賞品の中には「iPad Air」も! たくさんの卒業生オーナー企業さまにご提供いただいたワインや文房具、お風呂グッズなどの賞品が、参加者全員に当たりました。



開催報告

オール甲南の集い HOMECOMING DAY

2014.11.23 sun.

卒業生会

事前にお申込みいただいた団体さま(クラブ・ゼミ・サークルなど)に、お部屋とお食事、お飲み物をご用意しました。卒業以来初めての同窓会という団体もあり、久しぶりの母校での再会に歓声があがっていました。



全体懇親会

今年も200名を超える卒業生のみなさまにご参加いただき、会場のあちこちで懐かしいお話に花が咲いていました。途中、留学生メンバーを加えた「甲南大学和太鼓サークル」による演奏や、「甲南奇術会」によるマジックショーもお楽しみいただきました。最後は全員で学園歌を歌い、盛会のうちに幕を閉じました。



お祭り広場

プロのイラストレーターによる似顔絵コーナーや「albero KOBE」さんによるフラワーアレンジメント教室、マジックサークル「甲南奇術会」によるテーブルマジックコーナーのほか、お子様向けのスーパーボールすくい、迷路コーナー、お菓子やおもちゃのプレゼントなど、ご家族でお楽しみいただけるイベントが盛りだくさん! 卒業生だけでなく、地域にお住まいの方々にも多数お越しいただきました。

また、新イベントとして、甲南出身の弁護士、在学生の公認会計士と気軽に話することができる「甲南ロースクール紹介コーナー」を設けました。

はじめまして。

摂津祭のマスコットとして誕生したゆるきゃら、「なんぼー君」です。

甲南の「なん」とウリ坊の「ぼー」がネーミングの由来。応募された117体のキャラクターから選ばれたんだよ。オール甲南の集いにも遊びに行き、みなさんとたくさん記念撮影をしました。なんぼー君グッズも生協で発売中です。これからもイベントに遊びに行くので、応援よろしくお願いします!





Ultimate

[アルティメット]



Profile

文学部 人間科学科 2年次
かねざき ゆうすけ
金崎 勇祐さん

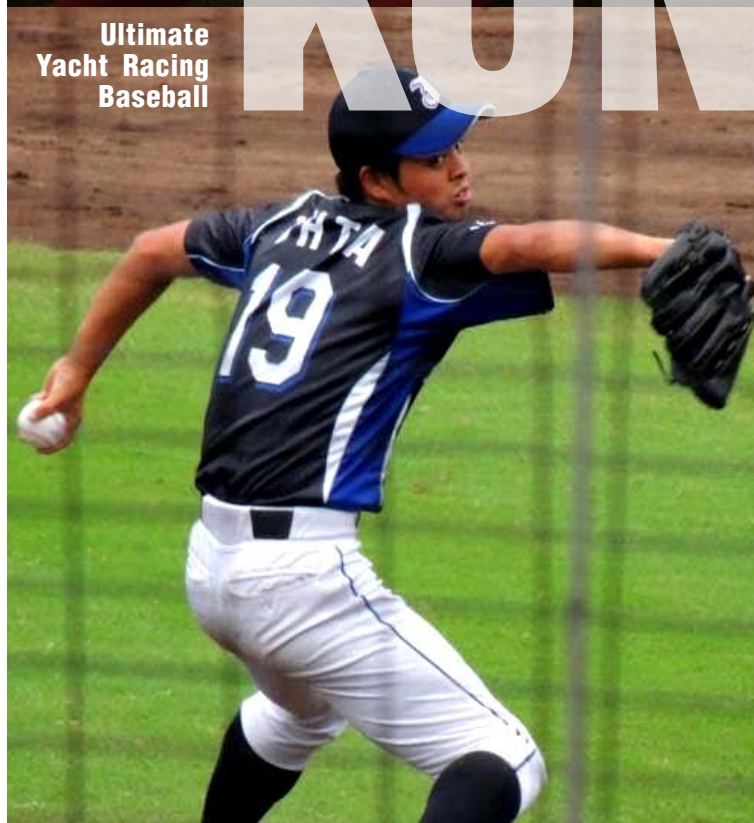
U-19日本代表メンバーに選出されるために、自身のレベルアップもさることながら、所属する甲南大学アルティメットサークルのリーダーとして奮闘中。



**世界で、
勝って、泣けた。
これが最高の財産。**



Ultimate
Yacht Racing
Baseball



KONAN×Sports
Ultimate
Yacht Racing
Baseball

〈特集2〉

躍動する甲南のアスリート

KONAN×Sports



でかいー!!
外国選手に勝ちたい!

フライングディスクをパスでつなぎながらゴールをめざす新しい競技、アルティメット。入学後、アルティメットサークルの練習を見学に行った金崎さんは、その場でとりこになった。「ディスクを投げて、走って、キャッチする。単純なようで奥の深い競技です」。

元来のスポーツセンスの良さから、すぐに頭角を現した金崎さんは、やがてU-19日本代表メンバーに選出され、イタリアで開かれた世界大会に挑む。「外国選手はとにかく大きかった。フィジカルの違いをまざまざと見せつけられました」。だからといって怯むわけではない、逆に闘志をかき立てられた。日本チームは2次トーナメントに進み、初戦の相手は巨漢ぞろいのオーストラリア。試合を優位に進めながら荒天のため中断、翌日の再試合で敗れる。「心身ともにごん底のコンディションながらも翌日のチェコ戦に勝利。そして、さらに気持ちを奮い立たせて1次トーナメントで大敗したイギリスに挑みました」。

世界で戦ったからこそ得られた経験。

絶対に勝つ。強い意志でチームががちりとまとまったゲーム。体格で大きく上回る相手に、チーム一丸となって向かっていった結果、勝利を手中にする。「負けたときは泣かなかったけれど、このときは自然と熱いものが頬を伝っていました」。

初めての世界への挑戦は、9位という結果に終わったが、一度は敗れたイギ

このところ、スポーツ界において甲南大学の活躍が注目されています。

日本代表として世界に挑戦する学生アスリートや、社会人野球日本一という栄光をめざし、ひたむきに努力を重ねる卒業生。トップアスリートとして競技と向き合う彼らは、同時に自分自身とも向き合い人間的な成長を遂げているようです。

甲南大学という環境を生かし、充実したアスリート人生を歩む4人の躍動を紹介します。



甲南大学在学時は硬式野球部に所属。その後、企業チームに身を置き、社会人野球で活躍する二人のアスリートを紹介しよう。

2014年11月京セラドーム大阪、歓喜の胴上げの中に明松さんの姿があった。所属するトヨタ自動車硬式野球部が、社会人野球日本選手権大会を制したのだ。プレイヤーから投手コーチに転身、2年目でつかんだ日本一である。「守り勝つのがトヨタのもち味大会を通して無失点という結果は自分たちの野球ができた結果です」。

在学時は、内角を攻める強気のピッチングと球のキレで勝負するエース。硬式野球部創部40年目にあたる1994年、初の神宮（全日本大学野球選手権大会）出場を果たした主力投手である。現在メジャーリーグで活躍する上原浩治投手とはリーグ最多勝を競った。卒業後は所属する企業チームが連続して休部するという不運に見舞われたが、それまで築いた実績や実直な人柄が進路を開き、社会人日本一を達成した。「目標を定め対策を講じ、行動する。明松さんにとって、野球も仕事も同様だと言う。アスリート生活を通して培ったのは、生涯色あせない人間力かもしれない」。

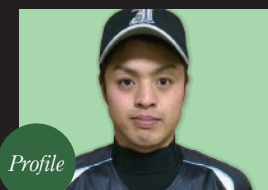
培った人間力によって 野球人と社会人を両立。

Baseball

「社会人野球」



Baseball
挑み
つづける
卒業生



Profile
JFE西日本硬式野球部
おた かつや
太田 勝也さん
2014年甲南大学経済学部卒業。
在学時はプロ野球のドラフト候補としても注目を集めた左腕の本格派投手。

野球があったからこそ さまざまな出会いがある。

Baseball
挑み
つづける
卒業生



トヨタ自動車硬式野球部
かがり ひでとし
明松 英俊さん
1998年甲南大学法学部卒業。社会人球団2チームを経て、トヨタ自動車硬式野球部に。同チームの投手コーチを務めた。

果たせなかった全国大会の
マウンドをめざして。

もう一人、卒業生が、同じ社会人野球日本選手権大会に出場を果たしていた。2014年春、甲南大学を卒業し、JFE西日本硬式野球部に入部した太田さんだ。

サウスボーから投げ下ろすストレートがもち味の太田さんが飛躍したのは、在学時の2012年、3年次秋のリーグ戦。硬式野球部は、前年より阪神大学野球1部リーグに昇格していた。そこで、先発投手の柱として4勝をあげ、防御率もリーグ2位という成績を残し、敢闘賞に輝いた。「入部当初は2部リーグだったこともあり、マイペースでレベルアップを図ることができました。実力が上がってきたところにチームも1部に昇格。タイミシングにも恵まれました。1部リーグのレベルの高い戦いに刺激されて、見えてきた目標は全国大会。在学中は叶わなかったが、卒業後すぐに、社会人として達成する。そんな太田さんが次に見据えるのは「社会人野球の全国大会でマウンドに立つこと。それと、プロ野球のドラフトで指名されること」。

野球を通して実感している『そばにはいつも仲間がいる』ことを励みに、また、そんな仲間と恥じないように、「一球一球の質にこだわり投球することを心がけている。全国大会のマウンド上、強気でストレートを投げ込む太田さんの姿を見られるのは、そう遠くないであろう」。



リスにリベンジを果たし、有終の美を飾ることができた。帰国後に考えたのは、次の世界大会のことだ。

「もう一度世界で戦いたい。そのためには、自分の意識を変えることが必要。大学のチームの練習のときも、どれだけ高いレベルをイメージできるか。自分の問題だと考えています」。

次の世界大会は2年後。代表選考会は4年次にあたるため、大会には社会人として出場することになる。「それでも構いません。アルティメットには、単なる趣味ではなく、本気で取り組みたい。だから、社会人になってももちろん続けます、目標は世界で勝つこと。まずは次の世界大会をめざし、もっと能力を高めます」と今後の抱負を力強く語った。



Yacht Racing
世界に挑む
甲南生



法学部 法学科 3年次
おざき げんや
尾崎 玄弥さん
国際大会の功績によって、(財)兵庫県体育協会より、平成26年度優秀選手賞を授賞した尾崎さん。現在は所属するヨット部で、後輩の育成にも注力している。

アウェイをホームに変える。

2014年6月、世界への切符をかけた全日本選手権で見事優勝。尾崎さんは、再び世界に挑むチャンスを手に入れたのだ。

「以前、オーストリアでの世界大会に出場したときは、ただただ外国選手に圧倒されていました。今回は、絶対に何かを得て帰る。これを目標にしました」。

アウェイ感を取り除くため、尾崎さんとパートナーは、試合の3週間も前に、アメリカサンディエゴヨットハーバーに着いた。どの国のチームよりも早く現地に入り、ひたすら試合会場で練習を重ねた。異国の街で暮らすことによって、その場に馴染んでいく感覚を確実につかんだ。「もはや、ここは決してアウェイなんかじゃない。そう思えたところにアメリカチームがやってきたのです」。

世界トップレベルの実力を誇るアメリカチームと尾崎さんたちは、毎日一緒

世界標準に レベルアップして 日本に 戻ってこられた。



に練習した。その間、日本のセオリーとは真逆のことをする彼らから、多くのことを学んだ。「要は、いかにヨットを進めるかです。波が高いのに風がない状況での対処法など、発見の日々でした」。

次は世界で戦える後輩を育てたい。

二度目の世界への挑戦は29位に終わったが、満足のいく結果だと言う。一度目と異なり、やるべきことが、すべてできた結果だからだ。体格も一回り大きく世界標準となつて帰ってきた尾崎さん、次の目標は二つあるという。「まず、上級生として大学のヨット部を強くすること。そして、もう一度世界で戦いたい」。再び、世界に挑戦する姿を見せるのは、自分に続くチャレンジャーを育てたいからだ。「あのすばらしい世界を、ぜひ後輩にも体験してほしい」と、後輩へのエールで締めくくった。



| 特集3 |

走り続けるスーパーレディ

原動力は、“愛”。

文学部教授 | 日本学術会議 副会長

いのせくみえ
井野瀬 久美恵

京都大学文学部卒業、京都大学大学院文学研究科(西洋史学専攻)単位
修得退学。博士(文学)。イギリス近現代史、大英帝国史を専門とする歴史
学者であり、気どらないパワフルな人柄で知られる。2014年10月、日本
学術会議第23期の副会長就任(任期3年)。

学生が卒業した後も、ずっと語り継がれる“名物先生”。そんな教員が、甲南にはたくさんいます。文学部 井野瀬久美恵教授もその一人。教育への情熱、厳しくも温かい人柄、アカデミックかつ斬新な視点で展開される授業、在阪テレビ局の番組審議会委員長をはじめとする学外での活躍実績など、“名物”と呼ばれる所以は数々あります。

当然のことながら、スケジュールは超過密。だから、学生たちは井野瀬教授のことをこう噂しています。「先生が学内にいればすぐにわかる、声が大きいから」「いつも走っている」。挙句に「井野瀬先生は、実は二人いる」とも…!

2014年度、さらに活動の幅を増した井野瀬教授。そのスーパーレディの素顔に迫ります。

井野瀬教授が宮中行事に

—今年の1月9日、
宮中の行事に陪席されました。

毎年1月、天皇・皇后両陛下はじめ、皇室の方々が学識者から講義を受ける「講書始の儀」という皇室儀礼に、日本学術会議副会長として陪聴させていただきました。凛と張りつめた空気に感動する一方で、実はとても緊張しました。

—日本学術会議の副会長には、
昨秋就任されました。一般の方には
なかなかなじみのない組織です。

私流に一言で言ってしまうえば、「社会や人々が幸せになる道筋を科学的に考えるための学術組織」です。内閣総理大臣の所管で、専門家たちが、それぞれの知見を生かして、わが国が抱える多様な課題を議論し、その解決を模索し、その先に開かれる未来のために政府に提言することが、大きな仕事です。最近では、新聞やテレビをにぎわせたSTAP細胞問題や東日本大震災復興・原子力規制などに関して政府提言を行い、メディアでも注目されました。

日本学術会議は、人文・社会科学、生命科学、理学・工学という全学問領域の研究とその研究に携わる者を視野に収めています。現代社会の問題の多くは、ひとつの専門分野の知見では解決できないほど複雑化しており、それが、学術会議の重要



性を高めているように思います。

—そのような組織の副会長という
要職に、首都圏以外の女性の私大教員が
推薦されるのは、非常に珍しく、
甲南としても喜ばしいことです。

ありがとうございます。産業界でも、各組織の要職に女性をどれだけ登用するかの国際比較が毎年行われ、日本の「後進性」が問題視されています。学術会議は政府機関なので、政府の肝いりということもあるのですが、指名をいただいたときは、「なぜ私が!」と、とても驚きました。と同時に、学術会議が担っている社会的使命を、ひとと感じました。

私は甲南大学においても、2008年から4年間学長補佐、2012年から2年間文学部長として、仕事をしてきました。その経験も評価されたのではないかと思います。

実際、この6年間に、大学や学部という組織全体を俯瞰して眺める方法、全体像を俯瞰してとらえる重要性を学べたことが、日本学術会議での仕事にとっても役



立っています。井野瀬久美恵がこの仕事で全力投球できているとすれば、それは、私を育ててくれた甲南大学という揺るぎないバックグラウンドがあるから。本当に感謝していますし、副会長の任務を全うすること、甲南に恩返しができること願っています。

—学内での役職を経験するとともに、
研究者として円熟期を迎えたときに
お声がかかったわけですね。
副会長としての井野瀬教授の
具体的な職務は?

学術会議が1期3年の間に出す提言や声明などの数は、100を大きく上回るので、そのすべてを最終的にチェックするのが私の大きな仕事です。どんな言葉や表現を用いて、誰に向けて何を発信するのか、提言内容を支える根拠資料は整っているか、思い込みではないかなど、言葉を大切に文学部ならではの、そして歴史学者としての目で精査しながら、全力を尽くしています。

この副会長や甲南での学長補佐などの

行政職と歴史学研究とは、大きく異なる仕事だと思っていましたが、実は共通する部分もたくさんあるのです。たとえば、課題・問題への向き合い方「今なぜ、それが問題なのか」を考えるところから始まる点は、行政職も研究も同じです。だからこそ、「問いをきちんと立てる」ことが重要。問いの立て方を間違えると、決への道筋も方法も外れてしまいます。さらには、今につながる過去を振り返り、「どうしてこうなったのか」を考える。目には見えない、時間の流れを見ることも似ていますね。

—目には見えない時間の流れを見る
というのは、ユニークな表現です。

”目の前にあるモノだけにとらわれない、時間軸を含めて、見えているものの背景を想像し、関連がないと思われる事柄や現象を互いに関連づける”ということ。たとえば、私は現在、『ブリティッシュ・スタディーズ』『ヨーロッパ研究』といった科目を担当していますが、イギリスなりヨーロッパなりの今を知るには、何が

これらの国や地域を作ってきたのか、そこまでのような問題が埋め込まれたかという視点が決定的に重要になります。19世紀後半以降、今に続くグローバル化が始まった「帝国主義の時代」、その中核に位置したイギリス、大英帝国をはじめとするヨーロッパ諸国は、何を考えて世界に乗り出していったのか、それを抜きにして、「イスラム国」の台頭を含め、現在の中東やアフリカの問題を正しく理解することはできません。「中核」を成立させている「周辺／周縁」の存在こそが、実はとても大切なのです。

それは、産業界、財界などが求め続けている「主体的に考える力」を養い、「人に聞いてもらえぬ意見」を言うことも関係しています。インターネットが普及した今は、何かキーワードを入力して検索すれば、「何か」出てきます。しかしながら、問題は、それが何の「答え」なのかということ。それら、誰でも得られる「情報や言葉」をいくら並べてみても、それはその人の

オリジナルではないし、おそらく、問いへの「答え」でもないはずです。

自分にしか見えないもの、問えないものは何なのか？ 常に問題を「自分事」として問い直す意識と意志―それは、私が講義で、コペビ（コペー&ベースト）天国となったIT時代を生き抜く処世術として、学生たちに伝え続けていることでもあります。

井野瀬教授は、二人いる!?

―学生の話が出ましたが、井野瀬教授の、非常に熱心かつ丁寧な指導に感謝する学生・卒業生の声をよく聞きます。

事の大小を問わず、学生のことならば何でも一生懸命になつてしまうのは、教員という職業のさが、なのでしょう。と同時に、甲南大学が、教育において、「顔の見える関係」を何よりも大切にしてきたからだと思います。

―多忙を極めながらも学内外の仕事をこなす井野瀬教授を見て、学生がさまざまな噂をしているようです。中でも印象的なのが、「論文の事前チェックをお願いしたら、あつという間に返ってきた。たくさん枚数があつたのに、とても丁寧に赤が入れられてあつた。井野瀬先生は二人いるんじゃないのか？」という都市伝説めいた話です。

「甲南大学の井野瀬久美恵」は一人しかいませんし、私はきわめて普通の人間ですよ。「なぜあの時、ああできなかったのだろう」と悔やむことも多いですし、シャワーを浴びながら、ワンワン、オイオイ、涙することもたびたびです（笑）。ただ、目の前の問題から逃げず、その時々自分にできること／できる可能性があることを精いっぱいやってきたという自負はあります。仕事を処理するスピードが速いと言われることもありすが、それは、教育、研究、そしてその他の役職仕事が鍛えてくれたものです。できることを一生懸命、言い訳せずにがんばる。この「言い訳せずに」が大切だと、学生たちに伝えつつ、自分にも言い聞かせています。

―その一方で、過労でたびたび倒れられているので、お身体を案じる声も聞かれます。

ご心配をおかけして申し訳ありません。確かに肉体的にはとてもハードですし、無理のきかない年齢になりましたし…。それでも、何事も自分なりに楽しみながらが私のモットーです！、特に、学生を含め、私は人と会って話をするのが大好き。その意味では、仕事も心のエネルギー源となっておりますので、ご安心ください。

解説 あわせて読むと理解が深まる

日本学術会議

同会議のHPによると、「行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、1949年1月に政府から独立して職務を行う『特別の機関』として設立された、我が国84万人の科学者を内外に代表する機関」となっています。職務は、「科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること」「科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること」。210人の会員と約2000名の連携会員が所属していて、科学者にとって会員に選ばれることは、非常に名誉なことです。

過去には、ノーベル物理学賞受賞者の朝永振一郎氏など、そうそうたる顔ぶれが同会議の会長、副会長に就任されており、井野瀬教授は、第23期（2014年10月からの3年間）の副会長として、「学術会議と政府、社会及び国民等との関係に関すること」を担当します。甲南大学の教員が同会議の副会長に推薦されるのは、開学以来初のことです。

講書始の儀

明治2年の「御講釈始」がそのはじまりとされ、昭和28年からは、現在のように「人文科学」「社会科学」「自然科学」3つの分野から行われるようになりました。皇太子殿下をはじめ皇族の方々も列席されています。本年は、「さくさくと一近代短歌を比較文学的に読む（川本皓嗣氏）」「東南アジアの政治経済と国際関係（白石隆氏）」「学習と記憶の脳のしくみ（中西重忠氏）」が進講されました。



―学生以外にも、たくさんの人から頼りにされる「姉御キャラ」です。たくましい「行動力がある」ことなどが、そう慕われる要素のようですが、井野瀬教授といえば、何ととっても「明るさ」。いつもはつらつとしたよく響く声で、「ありがとうー」とおっしゃっているのがとても印象的です。

ありがとうございます。姉御かどうかはともかく、明るいのは生まれつき、かな。日本学術会議で同じく副会長を務められている、宇宙飛行士の向井千秋さんに、「LED2000ワット」というニックネームをいただきました。LED電球に2000ワットは存在しません。それぐらい明るいという意味だそうです（笑）。

「たくましい」と思われているのは、「誰かにやつてもらおう」と考えるタイプではないことも関係しているのかもしれない。とにかく、まずは自分で動き始めます。いっしょに動いてくださる方も、特に若手を中心に、必ずいてくださる。そうしているうちに、まわりも動き始める。人間、一人でできることは限られていますよね。私も多くの人に支えられて、今ここにいます。「ありがとう」は私の大好きな言葉。もうひとつ、大切にしている言葉は「ごめんなさい」です。自分が間違ったときには、潔く「ごめん！」と謝ります（笑）。

甲南への思い

―最後に、日本学術会議という、ある意味日本の学術界を俯瞰する組織での要職を経験され、あらためて甲南大学を視たときに、その立ち位置についてどう思われますか。

東京での仕事が増えて、改めて強く思うことがあります。他大学と一線を画する「甲南大の



強み」は、「品性と品格」にある、ということ。品性と品格は、インターネットの検索で得られる「答え」などではなく、甲南大という空間で育まれた伝統―それこそ、目には見えないけれど、確実にそこにあるもの―からにじみ出てくるもの、そして感じるものです。また、物事を俯瞰的に見て、さまざまな専門的な能力や人の優れた部分を結びつける、いわゆる「総合知」も、この空間で育まれたものです。甲南が多くのビジネス・リーダーを輩出してきたのは、この「総合知」と品性・品格を兼ね備えた人物を育成してきたからに他なりません。今世界が求めているのは、まさにそういう人材。これらを今後、どのような形で、具体的な中身とともに発信していくかが、大きな課題だと思っています。

私は、甲南そしてここで学ぶ学生たちを心の底から愛しています。甲南が本当に大好きなのです。それが私の原点。学生たちが、ここで学んだ「何か」を糧に、社会で活躍し、充実した人生を送れること、甲南が唯一無二のそのありようをもっと意識的に大切にしていこう―それを強く願いながら、これからも、これまで通り、全力を尽くしていきます。

Message メッセージ

井野瀬教授を恩師と仰ぐ卒業生 玉田さんから

― 井野瀬先生は、“生涯の恩師”

6歳のときに父親を病気で亡くし、あしなが育英会の奨学金をいただいて大学に進学した私は、「社会に恩返しをしたい」とずっと思っていました。大学在学中、ウガンダへ一年間行き、エイズで親を亡くした子どもたちの支援をするボランティア活動をしたと考えましたが、大学を休学することになるため、迷いもありました。井野瀬先生に相談したところ、「私の目になっていろんなものを見てきて!!何でも力になるから困ったら私に連絡して!」と、背中を押してくださいました。ウガンダのエイズ遺児たちの生活環境は、想像をはるかに超える悲惨なものでした。また、思いがけないトラブルに何度も遭遇し、つらい気持ちにもなりましたが、井野瀬先生が日本から私を応援し続けてくれました。学生に呼びかけて洋服や文房具などを送ってくれたり、私のビザが切れて危うく刑務所行きになりそうだったときも、奔走してくださったり…。無事ボランティアを

全うし帰国できたのは、井野瀬先生のおかげです。学生にはかなり厳しく、叱られて泣く人もいます。でも、みんなそれが愛情だとわかっているし、間違いなく成長できていますから、口をそろえて言いますよ。「社会に出てから、井野瀬先生の教えがとても役に立っている」って。女性らしいのに、父親的な要素も強い（笑）。井野瀬先生ほど学生と真剣に向き合って叱ってくれる先生はいなかったので、出会えたことを本当に感謝しています。井野瀬先生は私にとっての“生涯の恩師”ですね。社会に出た今も、くじけそうなどき思い出すんですよ。「あなただったらできる!」「あなたの力はその程度なの?」という力強くて温かい井野瀬先生のおことばを。心が軽くなり、もう一度がんばろうという気持ちになります。早く社会人として力をつけて、井野瀬先生の力になりたいですね!



ただま こうすけ
玉田 孝介さん
文学部 英語英米文学科
2009年卒業
株式会社ユニヴ 東京支社長

玉田さんのウガンダにおけるボランティア活動は、「甲南Today」No.32でご紹介しています。
（「甲南Today」は、甲南大学HPでもご覧いただけます）。

甲南Today

検索

他動詞だけでも、 自動詞だけでもない 国際協力と体験学習の先にある

未来へ。

グローバル時代といわれる今日、世界各地には経済的な富とともに、格差や紛争や環境破壊などの問題も広まりました。よりよき地球社会の実現に向けて私たちは何を学び、どのように行動すべきか。国際開発協力の最前線で実務と研究を重ねてこられたマネジメント創造学部の実崎克彦教授にお話をうかがいました。

マネジメント創造学部 **真崎 克彦教授**
まさき かつひこ

関西学院大学社会学部卒業。アジア諸国にて国際開発協力の実務に従事した後、サセックス大学大学院で博士号（開発研究[Development Studies]）取得。国際開発協力を取り巻く課題や、社会の発展のあり方についての研究に取り組む。実務経験で培ったネットワークを生かして、学生たちに国内外での体験学習の機会を与えている。趣味は子ども（小学生）との映画鑑賞。

**国際開発協力のあり方とは？
ネパールで抱いた疑問。**

国際開発協力とは、衣食住や就業、教育や保健など、生きる上で欠かせないニーズを万人が満たせるよう支援する活動です。

最初の勤務先が国連開発計画（UNDP）でした。その名のとおり国連機関の一つであり、177の国と地域で発展途上国のための開発協力に包括的に取り組む組織です。ここで得られたさまざまな経験（＝体験学習）が、今の私の原点となっています。

赴任地はネパールでした。みなさんは、ネパールという国から何を連想しますでしょうか。『南アジアの貧しい国』『先進国の支援が必要な国』、というイメージ

ではないでしょうか。もちろん、これらは間違いではありません。そのように考えるからこそ、「地元社会の役に立ちたい。現地の人のためになる」という使命感が生まれ、さまざまな成果につながるのですから。私自身も、実際に仕事に就けた、水が確保できたなど、人々が救われる場面を数多く見てきました。しかし同時に、そのような見方に、漠然とした違和感をも覚えていました。

“Develop”という英語には、「（他者を）発展させる」という他動詞の意味と「（自ら）発展する」という自動詞の意味の二つがあります。私がネパールの地で悩んだのは、「（他者を）発展させる」という他動詞的な協力姿勢でよいのか？という点と「ほかに方法はいいのか？」という点です。外務省の外郭団体や民間企業での勤務を経た後、この疑問を解き明かすべくイギリス・サセックス大学大学院に留学。研究の一環として再びネパールで取り組んだフィールドワーク（＝体験学習）が契機になりました。

このとき改めて「支援する側」と「支援される側」の受

けとめ方のへだたりを痛感し、自分自身の研究テーマが明確になったのです。「支援される側」にも「（自ら）発展」しようとする自動詞的な動きがあるのだと。それを「支援する側」はどれほど尊重できただろうか。日本社会で何らかの問題を抱えた人がいれば、多くの場合、まわりも放置しませんし、当事者自身もどうにかしようと思うでしょう。それはネパールでも同じです。

**ブータンが教えてくれた、
自動詞的な発展の可能性。**

ブータンとの出会いは、2004年のことです。国際協力機構（JICA）の調査で訪問したのがきっかけでした。みなさんも、「国民総幸福（GNH）」ということばを聞いたことがあるのではないのでしょうか。ブータン独自の国の発展度合いを計る尺度。経済的・物質主義的な観点から発展をとらえがちな世界の時流から距離を置き、経済発展の追求のみならず、仏教文化や自然環境の保全をも大事にしようという国是です。

初訪問の際、人々の独立自尊の姿勢が強く印象に残りました。政府要人は毅然とこう語るのです。「私たちには、このような方針がある。だから、それに沿った協力をお願いする」と。ただ受け身で支援されるのではなく、対等な立場で自分たちの意思を明確にする。私がブータンから学んできたのは、こうした自動詞的な「（自ら）発展する」プロセスにコミットすることの大切さです。

もちろん、ブータンは理想郷ではありません。

ません。同時に、社会在来者の価値観や信仰心を守りながら経済発展を進めようとする姿勢に、他動詞だけでもない、自動詞だけでもない国際開発協力の新しい可能性を見いだしました。「世界の時流に乗り遅れまい」というグローバル化のかけ声がかまびすしい先進諸国にも、学ぶべき点があるように思います。

こうした観点より、近年ブータン中部地方の山村（上の写真、標高約3500メートル）で調査を行っています。フィールドワークの授業でも、この村ではありませんが、別の村でホームステイしながら人々と親交を深め、ブータン独自の発展のあり方に触れる体験学習の機会を、学生たちに与えてきました。

**「何となく興味がある」を
出発点に、自動詞的な学びの
一歩を踏み出そう。**

実務と研究を通じて得た「自動詞」と「他動詞」のバランスという観点は、教育でも重視しています。学生たちが受け身に学ぶ他動詞的な教育に加えて、現場で自ら考え行動する自動詞的な体験を増やしたい。そう考えて、正課授業以外に「ラオスインターンシップ」や「海士町インターンシップ」など、幅広い体験学習の機会を設けています。ラオスでは一村一品の特産品の開発や販売を手掛ける企業で、販売やイベント開催などを手伝い

ます。地域創生の成功例として知られる海士町（島根県隠岐諸島）では、観光協会が宿泊施設の手伝いや観光客向けイベントの補助を行います。

モンゴルでのNGO勤務やタイでの日本語教師の補助を取り計らったこともあります。いずれも学生がお客さまとなり、「お膳立て」された活動をこなすような受け身のインターンシップではありません。「自分には一体どのような手伝いができるのか」「仕事をどう進めればいいのか」を学生自らが考え、主体的に行動することが求められます。

こうした機会づくりに際しては、実務経験を通じて培ったネットワークを活用してきました。われわれ教員にはさまざまなネットワークがあります。学生には国内外での体験学習の機会を求めて、教員をもっと活用してほしいと思います。きっかけは「何となく興味がある」「あるいは「何かにチャレンジしたい」で十分です。現場で得られるさまざまな気づきは、必ず問題意識となつて心に残るでしょう。外界に一歩足を踏み出せば、そこには未知の大海が広がっているのですから。

真の意味でのグローバル化とは、「奪い合い」ではなく「分かち合い」です。今、そうした意識の転換が求められていると思います。学生たちには「社会がよくなる」には経済や政治がどうあるべきか、また「社会をよくする」には自分に何ができるのかを、ときに自動詞、ときに他動詞の視点で考えて、よりよき未来を切り拓いてほしいと思います。



甲南生から見た

「甲南学園 by AERA」

～ 自分たちの甲南大学を見つめ直す ～

学内外に好評を博した「甲南学園 by AERA」。『AERAがどのようにつくられているのか』を、文学部社会学科の「社会調査実践研究」の講義の中で学生たちが考えました。講義では考察にとどまらず、学生が自ら誌面企画を考え、発表するという試みが行われました。学生たちは自由な発想にもとづき、どのような企画を生み出したのか。それを人に見せる形に編集するためには、どのような力が必要とされるのか。活気に満ちた“模擬編集会議”の様子をレポートします。

学生が伝えたい
“甲南大学”とは

「私たちのグループは、『学生を影で支える人たち』という企画を考えました。これは、学内にあるカフェパンセや食堂で働く方々、また、私たち学生の安全に気を配ってくれる警備の方々など、甲南大学の『縁の下の方たち』として活躍している人々を紹介します」

発表役の学生が説明すると、聞いていたほかの学生たちからも、いろんな意見が飛び出した。「生協にレジ打ちの達人のお姉さんがいるの、知ってる?!一度話を聞いてみたいんだよね」「車に気をつけてね」といつも親切に声をかけてくれる警備のおじさん。どんな人なのか気になるよね!



“模擬編集会議”により臨場感をもたせるため、「甲南Today」制作にかかわっているディレクターやライターなどが、取材だけでなく講義にも参加。学生の考える企画はどれも、彼らならではの視点で非常に面白い切り口のものばかり。

「甲南Todayでぜひ取り上げてみたい!」とプロを唸らせた。一方で、「守衛さんたちのことを知らない人に面白いと感じてもらえるかな?全国の書店で販売される出版物だから、少し工夫が必要だね」

学生たちが気づかないような鋭い指摘が。学生同士、学生とプロの間で交わされる議論は尽きることがなかった。講義も終わりに近づき、先生が議論の内容をまとめたあと、プロの方々への質問タイムに。「質問の受け手からの回答が少ない場合、話を引き出す方法ってありますか?」「質問項目はいくつぐらい考えておけばいいでしょうか?取材時間はどのぐらいがいいですか?」プロからの回答に学生たちは真剣に耳を傾けていた。

「社会調査実践研究」では、学生たちが調査テーマを決め、現場を訪問して取材を行い報告書にまとめる。社会調査士資格取得のための科目の一つであり、企画、実査、発信の一連のプロセスを学ぶ。受講生たちは、毎年、ある課題に頭を悩ませていた。どうやって調査

対象を選び交渉すればいいのか。その一歩がなかなか踏み出せない。

フィールドワークのクラスを担当する西川麦子教授は考えた。「プロセスが似ている雑誌の制作過程から、学生たちはヒントを得ることができないか」「甲南学園 by AERA」が発行されて間もないころだった。これまでの大学案内とはまったく異なるデザイン、内容が目をつけた。学生たちも関心をもつはず。「この本をつくる経緯について、制作担当者から話を伺いたい」西川教授は、広報部に問い合わせた。



「表紙を白にしたのは、ちゃんと理由があって。長い間手元に置いて、白い表紙が汚れるくらい、何度も読み返してほしいためなんです」出版社側も大学の想いを汲んで、高級感のある体裁に仕上げてくれました。出版社の予算オーバーにならないか、ちよつと心配でした(笑)「こんな制作秘話にまで話がおよんだ。

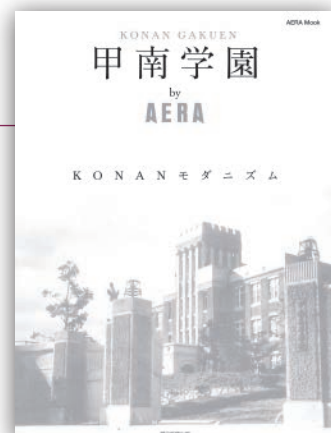
学生たちは事前学習として、「甲南学園 by AERA」を熟読して他大学の

AERAとの比較を行っていた。AERAを読んで感じたこと、話を聞いて改めて読み返した感想を学生たちはリアクションペーパーに綴った。「なぜ歴史ばかり取り上げるのだろうと思っていたけど、今日の話を聞いて納得した」装丁が他大学と違っていたのは、大学の想いに出版社がこたえたからだったことを初めて知った。

一方で、「私たちが過ごしている『今』の甲南大学とはちよつと違う」という意見も散見された。

では、学生の言う『今』の甲南大学の姿とは、どんなものなのか?そこで実現されたのが、模擬編集会議だった。

今回、「甲南学園 by AERA」を学生たちがとらえたのは、社会調査という視点。本を制作する過程だけでなく、内容分析を行ったうえで新たな企画を立案した。何かを作り出していくのではなく、完成されたものからそのプロセスを紐解く。今回の講義は、フィールドワーク形式の授業形態の新たな試みともなった。



「甲南学園 by AERA」
(A4判変型/116頁 本体838円+税)
全国有名書店にて発売中。

※本誌読者に限り、送料無料。
2冊以上の場合は本体価格5%オフにて承ります。
代金引換にて、紀伊国屋書店よりお送りします。
ご希望の方は広報部(078-435-2314)までお問い合わせください。

※朝日新聞出版の担当者が語る「甲南学園 by AERA」を
大学ホームページに掲載しています。こちらもぜひご覧ください。





Volkswagen(独)の小型車BEETLEの生産台数は、世界最多の2153万台。空冷式4気筒水平対向エンジンは排ガス規制をクリア。ナンバーは成績表オール5への憧れ。

ロングランのドライブは、いつもご夫妻とビートルくんの3人で。



「せっかち」と「スロー」。
最高のパートナー同士。

バリバリバリ。独特の排気音とともに現れたのは、純白のフォルクスワーゲンビートル。「えっ、まさか?！」と目を丸くするほどキレイな車体。1971年に出合ってから40年以上にわたり、人生の伴走者(車)として大切に乗り続けてきた証といえる。「ビートルくん」と呼ぶほどゾクコンな稲森氏だが、最初に胸をときめかせたのはアメリカ車だったという。

「1960年当時、自宅の近くには、すでに外国車ディーラーのヤナセがあったのです。幼かった私はショールームにへばりついて、ド派手なフォードやシボレーを眺めていました」。

やがて社会人になり、ショールームで車を品良く飾るビートルにひと目惚れ、当時では破格の89万9000円で購入した。頑強さで定評のあるドイツ製とはいえ、40年余りも乗り続けるとなると小まめなメンテナンスが欠かせない。さらに「ゆっくりに走らせてウォームアップ」「アクセルは必要以上に踏み込まない」など長く乗るためのルールは数多い。ピカピカの車体はワックスがけに頼らず、たとえば小雨に濡れた後は、タオルで丁寧に拭き上げている。おかげでビートルくんは、とにかく目立つ。高速道路などで渋滞になると、周りの反応が凄いか。

「あつ、カブトムシだ!」「かつこい!」「なんて声が聞こえてくるのです。さりげなく愛車を自慢できるのは気分がいいですね」。

誰もがイライラする渋滞を楽しく過ごせるのも愛車のおかげ。「せっかちな自分とスローなビートルくん、二人の相性は抜群です」と頬を緩める。



遠征とトラブルを
乗り越えてますます
深まる二人(?)の絆。

10万キロ、20万キロと、メーターにゼロが5つ並ぶ度に増していった走行距離へのこだわり。大きな目標だった77万キロを走破したのは2013年6月22日、世界文化遺産登録の高野山金剛峯寺(和歌山県)前。それまでに47都道府県はもちろん、日本国内の世界遺産をすべて訪問。憧れだったヨーロッパのドライブも実現している。

「ビートルくんを貨物船に載せてフランスへ渡り、2000年5月から約3か月間、EU12か国・2万キロを夫妻でドライブ。フォルクスワーゲン本社も訪れて愛車を里帰りさせるという宿願を果たせたときには涙があふれました」。

とはいえ好事魔多し。その4年後には最大の危機に見舞われた。名神高速道路の下り、横浜から自宅のある箕面に向けて順調に走行していたが、尾張一宮PAの手前2キロで突然バスという爆発音が響き、エンジンが焼きついて急停止したのだ。当時の走行距離は、64万キロ。

「いつか、近いうちに」と警戒していた私は、とっさにギアをニュートラルへ。尾張一宮PAまで惰性で走行しました。なんとか、レッカー車が牽引しやすく他車に迷惑が掛からない場所に停車。我ながらよくぞ冷静に対処できたものと思い、また期待に応えてくれたビートルくんへの愛着が増した出来事でした」。

目標達成へ向けての
推進力は甲南で培った
堅忍不拔の精神。

まさに悲喜こもごもの77万キロだったが、目標達成へ向けての精神力は大学時代、特に所属した硬式野球部で培われたと話す。

代、特に所属した硬式野球部で培われたと話す。

「厳しい指導と猛練習に耐え、堅忍不拔の精神を貫き通した日々でした。守備の要の捕手でレギュラー入りしたときは、努力の積み重ねが大きな実を結ぶことを実感できました。平生鈺三郎先生の孫、平生眞二氏、平生誠三氏の兄弟が活躍したのもこのころでした」。

大学では1963年阪神大学野球連盟春季リーグ戦で優勝を果たし、自身はMVPに選出。この勢いは社会人となっても衰えず、都市対抗野球の横浜市予選において7年間、社会人野球「日立横浜」捕手4番打者として出場を果たす。1972年、野球人生に終止符を打つのだが、ビートルとの出会いもそのころだった。大学野球部時代に自分を盛り立ててくれた監督や先輩、仲間への感謝の気持ちは、愛車とのランデブーを温かく支えてくれる周りの人々にも向けられた。

「走行距離を稼ぐため、得意先への出張は上司に頼んで新幹線を使わず愛車で移動。信頼できるメンテナンススタッフの方々ははじめ、ビートルくんはさまざまな出会いを私にもたらしてくれています」。

東京へのロングドライブの励みとなったのは、現地で活躍する大学時代からの友人と過ごす豊かな時間。いつも寄り添ってくれた奥様にも改めてお礼を言いたいと話す。

「人の縁の有難さが身に染みた私は今、地元・箕面のボランティアガイドとして、この町と観光客のみなさんとの縁を紡いでいます。私もビートルくんもまだまだ元気いっぱい。2015年2月には、78.3万キロを記録しました。新たな目標、100万キロに向けて今も走り続けています!」。



「走行100万キロを達成するには、『米寿』の年齢にかかりそうですが、意志を貫き通したいと思っています」と次の目標に向かって、ますますお元気の稲盛氏とパートナーのビートルくん。



第一線で活躍する卒業生たち
It's KONAN
Style

走行距離77万キロは単なる通過点。 VW BEETLEと駆ける、 夢の軌跡は果てしなく。



独特のシルエットでカブトムシと呼ばれるVW BEETLE(タイプ1 VW1302 11ABセダン)。
今回は一匹のカブトムシ、いや一台のビートルを愛し続け、42年間で77万キロ(月と地球の往復距離!)を走破。
その快挙から自動車専門誌にもしばしば登場する稲森正宏氏を紹介します。



いなもり まさひろ
稲森 正宏 氏

1941年生まれ。甲南大学経済学部を卒業後、日立家電(株)に入社。合併により転籍した(株)日立製作所では家電・情報メディア事業本部統括部長となり、2002年に定年退職。現在は箕面市観光協会の箕面観光ボランティアガイドとして活動中。

大切な人が、いきなりいなくなる。それが天災



ひらの たくお 平野 卓雄 氏

会社員。1988年甲南高等学校卒業、1992年甲南大学法学部卒業。母親を亡くした失意と周囲の混乱で眠れぬ日々が続いた手記がテレビ局に取り上げられ、番組が作られる。

この日、語り部としての平野さんのことばは、震災の記憶を生徒たちにつなげました。

「街はまるで映画のセットのようでした。それもゴジラに踏みつぶされたようなペシヤンこの状態です」。平野氏は、被害のあまりの激しさに現実感を失った記憶から話を始めました。死者6434名、うち4000名が生き埋めで、その半数が即死といわれます。倒壊した家の重みで亡くなった人の多いことが、この地震の特徴です。ほとんどの家の1階部分がぶれている街を目の当たりにした平野さん、頭の中にあつたのは実家の母のことでした。

「待つとけよ。助かつといってくれよ」東京から飛行機で関西空港に戻り、先輩の自転車を借りて大阪から走っている間、ずっと叫んでいました。

願いはむなく、実家は押しつぶされ原型をとどめていませんでした。救出作業に取りかかっていた自衛隊員は、作業途中で他の倒壊現場に行ってしまう。なぜなら、平野さんのお母さんは既に声掛けに対して反応がなく、反応のある人から救助が優先されたから。遺体が見つかったとき、平野さんは壁に頭をぶつけて泣き叫んだと言います。

震災後、平野さんは会社の上司から次のように言われました。「君は生かされたのだ。17日に神戸にいなかったのは偶然ではなく必然。生き残った者の義務として語り部となり、この記憶を後世に語り伝えなさい」。

そのことばどおり、平野さんは震災の記憶を書き綴りました。その手記は放送局の目に止まり、あるテレビ番組に取り上げられました。講演では、その番組の録画映像も上映されました。

天災は防げない。けれども悲しみは防げる。

上映が始まると、それまでざわついていた会場は、水を打ったように静まりました。当時の神戸の壮絶な状況、そして平野さんが手記に綴ったことばが、生徒たちの胸に刺さります。深く、濃密な時間が過ぎ、生徒たちの心に何かを残して上映が終わりました。静まり返った会場に、平野さんのことばが響きます。

「あんなにひどい地震は二度とないと思った。でも東日本大震災が起きました。天災を防ぐことはできないのです。ただ、天災が起きたとき、死ぬことを防ぐことはできます。たとえば、頭より高いところに物を置かないこと。それだけで生き残る確率はぐんと高まります。どうか被害を防ぐ意識を忘れないでください。そしてもう一つお願いします。みなさんを産み育ててくれたお父さん、お母さんに感謝してください。私は、ありがとを伝えることができないまま母を失ってしまった。子どもとしてこれほど悔しいことはありません。わざわざ面と向かってありがとと言わなくていい。おはよう、いただきます、行ってきます。何気ないあいさつでいいから、ぜひご両親に話しかけてください」。

語り部としての使命を負って。



震災当時の神戸市。

阪神・淡路大震災から20年、あの体験を決して風化させない。

講演レポート

卒業生が
後輩に語る

震災の記憶

1995年1月17日午前5時46分。阪神・淡路地区を巨大な地震が襲いました。あれから20年、震災後に生まれた今の中学・高校生にとって大地震は、遠い昔の出来事になりつつあります。しかし、大災害の記憶を風化させてはなりません。そこで甲南高等学校・中学校では、2014年12月13日(土)と翌年2月25日(水)の2日間にわたって自ら被災した卒業生を招いて講演会を行い、当時の記憶について語っていただきました。



オリバーソース(株)は火災から免れたソース原液を使った記念ソース「20年仕込み熟成クライマックスソースセット」を、去る1月17日に発売しました。2005年、2010年と震災後の節目に記念ソースを発売してきましたが、今回の商品で残された原液はすべて使い切ります。「20年の重みを味わってほしい。これで復興にはいったん区切りをつけ、新たな一歩を踏み出したい」と道満社長。なお、この収益は、東日本大震災の復興支援のために全額寄付されます。



「今、隣にいる友人としっかりと握手しておくこと。甲南の卒業生は、みんな立派に生きている。大人になってからも、必ず助け合える。ここにいるのは、そんな友人ばかりであることを忘れないようにしてください」。

「幸せかどうかは自分で決める。ポジティブにがんばり抜くこと」、それこそが復興を遂げた原動力だと、道満社長は語ります。そしてもう一つ、再建から今にいたるまで道満社長を支えてくれたのは、中学から大学までに培った甲南のネットワークでした。甲南高中の生徒へ、道満社長は次のようなメッセージで、締めくくられました。

「幸せかどうかは自分で決める。ポジティブにがんばり抜くこと」、それこそが復興を遂げた原動力だと、道満社長は語ります。そしてもう一つ、再建から今にいたるまで道満社長を支えてくれたのは、中学から大学までに培った甲南のネットワークでした。甲南高中の生徒へ、道満社長は次のようなメッセージで、締めくくられました。

「幸せかどうかは自分で決める。ポジティブにがんばり抜くこと」、それこそが復興を遂げた原動力だと、道満社長は語ります。そしてもう一つ、再建から今にいたるまで道満社長を支えてくれたのは、中学から大学までに培った甲南のネットワークでした。甲南高中の生徒へ、道満社長は次のようなメッセージで、締めくくられました。

「幸せかどうかは自分で決める。ポジティブにがんばり抜くこと」、それこそが復興を遂げた原動力だと、道満社長は語ります。そしてもう一つ、再建から今にいたるまで道満社長を支えてくれたのは、中学から大学までに培った甲南のネットワークでした。甲南高中の生徒へ、道満社長は次のようなメッセージで、締めくくられました。

復興の原動力は、亡き社員が残してくれたソース。

「実際のにはゼロからではなく、当時の年間売上を超える借金を抱えるマイナススタートになります。さらに工場を再建して業務を再開できるまで2年半はかかる。その間、売上はゼロなわけです」。

「復興の原動力は、亡き社員が残してくれたソース。」

「火事にやられました。工場も建物は残ったものの、中は真っ黒焦げでソースの海になっている。けれども、悩んでいる時間はない。とにかく決断しなければならなかったのです」。震災が最初に道満社長に突きつけたのは、厳しい決断でした。

年商の1.5倍を超える借金、2年半のブランクからの復活。



オリバーソース株式会社 代表取締役社長 どうまん まさひこ 道満 雅彦 氏

1971年甲南高等学校卒業、1975年甲南大学経営学部卒業。震災では甚大な被害を受けたが、犠牲になった社員の形見のソースを、世に送り出すために困難を乗り越え見事に復興を遂げる。

幸せかどうかは自分が決める！

みんなのために、みんなで取り組む自治会活動。

校内にとどまらず、地域へも視野を広げて。

「自治会活動」と聞いても、ピンと来ない方が多いかもしれません。なぜなら自治会は、縁の下の力持ち。自分たちが何かのイベントの主役として、表舞台に立つことはないからです。けれども、「生徒全員のために」を合言葉に、地道な活動にひたむきな情熱を捧げる生徒たちがいます。中高一貫校ならではの先輩後輩の太い絆に結ばれた生徒たちの思いが織りなす活動を紹介します。



定期的に行う通学路の清掃。

ささやかだけれど、僕たちにできる確かな地域貢献。

自治会として、まず力を入れているのが、地域に対するボランティア活動です。たとえば通学路は、毎日多くの生徒がお世話になっている場所。感謝の気持ちを込めた清掃活動には、毎年多くの中高生が参加しています。

少し変わった活動として芦屋市にある阿保親王御陵の地域清掃には、自治会総務委員長の松本さんと体育委員長の金岡さんが参加しました。阿保親王は平城天皇の第一皇子で、在原業平公の父君に当たる人物です。普段は入ることのできない神聖な場所です。特別なオーラを感じました」と金岡さんは、振り返ります。

ほかにも「芦屋クリーン作戦」に参加して、地域の方と触れ合いながら活動に取り組んだり、文化祭での売上で車いすを購入し、地元病院に寄贈したり。自分たちを見守ってくれる地域に対するご恩返しに、自治会は取り組んでいます。

全員参加、全員で楽しむ理想の学校行事をめざして。

自治会にとつての2大イベントが、体育祭と文化祭。といってもメンバーの役割は裏方に徹すること。主役となる生徒たちが、全員参加し

て、全員が思いきり楽しむ舞台づくりが仕事です。

「体育祭の成否は、企画で決まります」あとは、徹底的に段取りの打ち合わせをしました」と振り返る体育委員長金岡さんと書記の田栗さん。もちろん、どれだけ精密に組み上げた企画でも、本番ではハプニングが起こるもの。「そんなときほど、まずリーダーが落ち着くことによって、みんなも冷静に対応できることを学びました」と松本さんは語ります。

3年前から力を入れてきたのが、文化祭を全校生徒参加型イベントにすること。そのため文化祭実行委員を別組織として立ち上げ、一人でも多くの生徒が活躍できる仕組みを整えてきました。

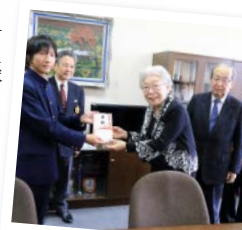
先輩、後輩の一体感が自治会活動で得た財産。

協役としてイベントをサポートする自治会メンバーの多くは、文化祭の催し物を見学したり、模擬店で食事を楽しむ時間は、ほとんどありません。それでも高校3年生のメンバーは「自治会活動は得難い財産になった」と口をそろえます。

中学3年のときから参加し、文化委員長を務めた初田さんは「自治会は、まさに僕の甲南での生活そのものでした」と振り返ります。自治会の魅力は、中学生のときから高校生の先輩と一緒に活動できることであり、「みんなのために」を考えることに

より自分の意識が変わることにあります。

「華々しい舞台に出ることはありません。けれども、自治会は生徒全員



寄付の目録をユネスコ協会へ。



後列左から	2年 高松 竜成 さん (たかまつ りゅうせい)	2年 田栗 匠一郎 さん (たぐり しょういちろう)	1年 福井 秀明 さん (ふくい ひであき)	2年 坂本 勇斗 さん (さかもと ゆうと)	
前列左から	2年 高雄 凌 さん (たかお りょう)	3年 金岡 信宏 さん (かなおか のぶひろ)	3年 松本 一樹 さん (まつもと かずき)	3年 初田 脩馬 さん (はつだ しゅうま)	3年 平野 伊織 さん (ひらの いおり)
列外左から	1年 植垣 博斗 さん (うえがき ひろと)	3年 安場 悠生樹 さん (やすば ゆうき)			

「平生記念館開館40周年記念企画」

平生先生と

「拾芳会」の記憶

しゅうほうかいのさおく



1921(大正10)年 拾芳大会

学園創立者 平生鈞三郎は、苦学した経験から、1912(明治45)年、若者に学資を給付する育英事業を私費により立ち上げました。援助を受けた人の集まりは財団法人「拾芳会」として発展し、今も会員やそのご家族が平生の墓参会などを開いています。ここでは平生記念館40周年を記念して、「拾芳会」のご家族に記憶を振り返っていただきました。

各地から推薦された会員はその後日本を支える人材に。

甲南学園の同窓生が集う平生記念館。2014年9月に開館40周年を迎えた同施設を、拾芳会員の「ご家族 濱田邦夫さん、正田日出夫さん、田中脩さん、澤武潤子さんが訪れ、当時を偲ばれました。

平生が始めた育英事業は、香の花のつぼみを拾い上げるの意味から「拾芳会」と名付けられました。全国から集まった会員は161名におよび、関西では毎年数名が平生家に下宿、首都圏に進学する会員のためには寮が開かれ、平生から家族同様の愛情が注がれました。

40周年事業の実行委員を務めら

今も連綿と続く拾芳会の心と記憶。

れた濱田さんのご尊父は拾芳会の一期生で、東京の大学へ進学した後に報道機関へ就職。正田さんのご尊父は甲南高校・中学で物理の教員に。田中さんのご尊父は関西の大学へ進学し、エネルギー関係の技術者になられたとのこと。澤武さんのご祖父は医師となり、ご自身も甲南高校・中学の英語の教員に。医学へ進んだ会員にはご恩返しに甲南病院に勤務する者も多く、その他の会員たちも各界で活躍。「日本を支える人材を育てたい」という精神で拾芳会を立ち上げた平生の願いが叶いました。

会員たちが巣立っていった後も、平生は彼らを常に気にかけていました。「給付の奨学金でしたが、父がお返ししたところ、丁寧なお手紙をくださいました。年に一度の拾芳大会に集まるOBの近況報告を何より楽しみにしていたと、先生のご家族から伺っています」と田中さん。正田さんは子供のころに阪神大水害に見舞われ、心配した平生の勧めで平生邸の近くに引っ越しました。「先生のご家族とも接する機会がありました。父の大事な会員さんという感じで、いつも温かな雰囲気でお話をしてくださいました」。甲南幼稚園から大学まで通われた濱田さんは、甲南大学の硬式野球部在籍時代に甲南高校野球部を指導しており、「先生のお孫さんの平生眞二さん、誠三さんにも野球を教えました」というエピソードを披露。

平生記念館開館40周年記念集会が開かれました。

甲南学園に学んだ同窓生が集い、創立者平生鈞三郎の遺訓を後輩たちに語り継ぐ場所として、1974年平生邸の跡地に建てられた平生記念館。2014年9月14日、開館40周年の記念集会が開催されました。集会には、平生家の方々をはじめ、旧制高校の同窓生や学園、大学・高校同窓会などから約100名が出席。長坂悦敬学長の挨拶に続き、実行委員を務められた濱田さんが、平生の生い立ちから平生邸訪問、学園創立、記念館誕生などの思い出を語られました。



拾芳会出身の中川路 貞治氏は甲南学園第6代理事長を務められました。

会員の多くが故人となり、現在は遺族会員が中心となつて、平生の命日には墓参会を行っています。拾芳会の心と記憶を残したいというのが、濱田さんたちの願い。「平生先生のような方がいらしたことが、また多くの人材が育っていったことを、学園創立百周年を迎える今、語り継がれるようにしたい。平生の遺訓は今も脈々と受け継がれています。



灘購買組合創立者 那須善治

灘購買組合は創立時の組合員数は三百人余りであったが、その後急成長を遂げ、昭和四（一九二九）年六月には二六三二人となり日本でも有数の模範的組合となる。しかし順調に発展していたこの組合の背後には、窮状にあえぐ多くの小売商がいて、彼等は灘購買組合こそ営業不振の原因と見て敵視していた。そしてついに一市六町村（御影、住吉、魚崎、本山、本庄、精道、神戸市の六甲）の小売業者二千余人りが「大資本に対する小資本の悲哀」だと怒りの声をあげ、「灘商業振興会」を結成し、中央政界からも政友会代議士の応援を求めて反購買組合運動を起こした。これに対する平生の反応は次のようなものだった。相手がデパートであれば大資本対小資本が問題になるが、「購買組合は組合員が結束して生産者より需要者に至る間に

解決手段として「労働保険及労働銀行」はどうかと平生の意見を求めたことがあったが、平生はこの岡本を「我邦の現状に適す可き解決方法の考案に腐心」して「真に篤志の人」と高く評価する。その後労働問題の研究者となり活動の拠点を関東に移していた岡本は、大正八（一九一九）年八月四日に再び平生を訪問し、企業ごとの従業員を基本とする「労資協調」組織の設立につき資金援助を求めてきた。平生はこれに

『平生鈇三郎日記』
第一巻～第十巻を刊行中です。



『平生鈇三郎日記』第一巻～第十巻を刊行しました。6月には、第十一巻を刊行予定です。定価は各巻20,000円（税抜）ですが、甲南学園関係者の方（卒業生、在学生、ご父母、教職員等）は、10,000円（税抜）でご購入いただけます。

ご注文・ご購入に関するお問い合わせ
甲南大学生協書籍部
Tel.078-441-7901 Fax.078-441-7915

<写真提供／生活協同組合コープこうべ>

平生鈇三郎
日記刊行
記念シリーズ

平生鈇三郎と 灘購買組合

○平生鈇三郎と那須善治

第一次世界大戦後の日本経済は大揺れに揺れた。井上準之助はこれを次のように形容した。第一次大戦末の経済は乙女峠あたりにあったが、休戦で御殿場まで落ち、その後反転して「僅か十箇月の間に富士の山の頂上まで馳せ登って」、「十箇月目の（大正九年）三月には、富士の山の頂上から非常な速力で墜落して、富士川の川底どころではない、恐らくは琵琶湖の湖底まで落ちた」。この大正九年恐慌を境にして日本経済は関東大震災、金融恐慌、昭和恐慌と波状的に大津波に襲われ飲み込まれていく。

経済的にも、政治的にも、また思想的にも不安定になってくるこの時代、特に下層階級の人々の生活は困窮し、やり場のない不満を鬱屈させていた。そんな中、神戸では彼等を救済するためキリスト教伝道者賀川豊彦らが中心

となって消費組合運動が活発となり、大正一〇（一九二二）年、神戸購買組合と灘購買組合が相前後して設立される（両者は戦後合併し現在コープこうべ）。灘購買組合の創立者で初代組合長を務めたのは那須善治だが、彼は以前名うての株式仲買人として大阪では知らぬものはなかった。しかし相場で失敗し、何もかも失うという窮地に陥ったとき、彼は平生鈇三郎に救われる。平生の意見にしたがって経済変動を読み、相場を当てる大成功をおさめたのである。以来彼は一大発心し、「人類共存主義」の日蓮を信仰し、平生の生き方に傾倒していった。

○岡本利吉の購買組合

実は平生は以前から岡本利吉を通して協同組合運動を支援していた。高知出身の岡本はかつて三菱東京倉庫大阪支社の社員として大正七（一九一八）年十月六日に平生を訪問し、労働問題の



草創期の灘購買組合

解決手段として「労働保険及労働銀行」はどうかと平生の意見を求めたことがあったが、平生はこの岡本を「我邦の現状に適す可き解決方法の考案に腐心」して「真に篤志の人」と高く評価する。その後労働問題の研究者となり活動の拠点を関東に移していた岡本は、大正八（一九一九）年八月四日に再び平生を訪問し、企業ごとの従業員を基本とする「労資協調」組織の設立につき資金援助を求めてきた。平生はこれに

対し「労働者の福利を計り、併せて産業の発達を計らんとする人」と評価し、「応分の助力を為すことを快諾せり」と答えている。

大正九（一九二〇）年八月二二日の日記によれば、岡本は住吉に平生を再度訪問して「コオポレーターブソーサイチーの事業」について相談をし、十一月六日の日記には、東京で「愈々共働社なる購買組合を設立し、以て労働者をして廉価に日用品を購入するの便宜を得せしめん計画」を語り、これに要する費用千円の貸与を申し出たので、平生はこれに「快諾」している。

○灘購買組合の設立

平生の大正一〇年三月四日の日記に次のような興味深いエピソードが記されている。那須がある晩平生を訪問し、株式仲買をやめて「余生と余財を公共的事業に善用」したいが、どんな事業がふさわしいだろうか、と平生に意見を

求めたので、次のように答えた。下層の人々を精神的に落ち着かせるには「日常生活の安定」がなにより大切だが、そのために「徒に寄捨金を以て廉売を為す如きは却って惰眠を誘導するに終わるものなれば、彼等をして他力に頼らずして廉価に日用品を得せしむるの方法を講ぜざる可からず。これには購買組合こそ尤も適當の方法」である。実際東京では岡本利吉がこの考えを実践している。

三月六日には住吉小学校の講堂で那須の消費組合設立のための講演会が開催され、講演者として賀川豊彦が立ち、消費組合とは何かを語った。現在労働者は資本家と利益をめぐって激しく闘争しているが、彼らの幸福はここにはない。むしろ消費者と生産者の間に立つて消費組合を作って仲介者を排除すれば、これまで仲介者の懐に入っていた利益が労働者＝消費者のものとなり、他方で生産者には少額の利子を支払うだけとなる。この消費組合はさら

○小売商と 灘購買組合の対立

に発展して自ら製造し加工し分配できるようになれば、労資の階級は自ずと消滅し平和が訪れるだろうと。

平生はこの講演に感動する。「余は賀川氏の主張に賛同し、那須氏の志を遂げしめんことを期望して止まず。余も理事の一人として微力を致さんと欲す」。

灘購買組合は創立時の組合員数は三百人余りであったが、その後急成長を遂げ、昭和四（一九二九）年六月には二六三二人となり日本でも有数の模範的組合となる。しかし順調に発展していたこの組合の背後には、窮状にあえぐ多くの小売商がいて、彼等は灘購買組合こそ営業不振の原因と見て敵視していた。そしてついに一市六町村（御影、住吉、魚崎、本山、本庄、精道、神戸市の六甲）の小売業者二千余人りが「大資本に対する小資本の悲哀」だと怒りの声をあげ、「灘商業振興会」を結成し、中央政界からも政友会代議士の応援を求めて反購買組合運動を起こした。これに対する平生の反応は次のようなものだった。相手がデパートであれば大資本対小資本が問題になるが、「購買組合は組合員が結束して生産者より需要者に至る間に

於ける剩費を節約してなるべく良質の日用品を廉価に購入して生活の安定を期せんとする相互扶助の組合」であり、生産と消費を直結させる「社会経済の理想」を追及している。国家もこれを奨励している。小売商人たちの今回の運動は理解できるが、時代の「大勢に逆行せんとする反社会政策的行動」である。これを政友会の代議士が応援しているのは「自己の投票の獲得のため」であって「痛嘆」の他ない（昭和四年六月一九日）。

七月十一日には平生は灘購買組合理事として、小売業者側代表で県会議員でもある新居寅太郎の訪問を受けて灘購買組合と灘商業振興会の関係について話し合っている。平生は購買組合について持論を語ったのち、小売業者が置かれた現状を次のように認識していると述べた。小売業が経営難に陥っているのは購買組合の問題ではなく、「相互の競争」が過剰だからである。一市六町村の人口が六万弱で、小売業者が二千もあれば「存立すべき余地なきを想像するに難からず」。とすると彼等が購買組合に対抗しようとするれば「共同仕入」以外にはないのではないか。そして販売にあたっては家族が「顧客の便利を計ることに専念し、親切と誠実」を以てすれば購買組合の販売に決して劣ることはないと言くと、新居自身御影信用組合理事長でもあったから、平生の見解をすぐに理解し、最後に灘商業振興

経済学部教授

藤本 建夫

(ふじもと たてお)

対し「労働者の福利を計り、併せて産業の発達を計らんとする人」と評価し、「応分の助力を為すことを快諾せり」と答えている。

大正九（一九二〇）年八月二二日の日記によれば、岡本は住吉に平生を再度訪問して「コオポレーターブソーサイチーの事業」について相談をし、十一月六日の日記には、東京で「愈々共働社なる購買組合を設立し、以て労働者をして廉価に日用品を購入するの便宜を得せしめん計画」を語り、これに要する費用千円の貸与を申し出たので、平生はこれに「快諾」している。

○灘購買組合の設立

平生の大正一〇年三月四日の日記に次のような興味深いエピソードが記されている。那須がある晩平生を訪問し、株式仲買をやめて「余生と余財を公共的事業に善用」したいが、どんな事業がふさわしいだろうか、と平生に意見を



入試事務局

松下 竜士 専任職員

〔資格・特技〕系東流空手道初段・野球

平成26年12月1日付



理工学部・知能情報学部事務局

天王寺谷 千裕 嘱託職員

〔資格・特技〕フランス語・タカラヅカ観劇

平成26年10月1日付



経営学部

山口 聖 准教授

〔専門分野〕証券論

平成26年9月17日付



文学部 人間科学科

木村 博 教授

〔専門分野〕哲学・環境倫理学

平成26年9月1日付

新任教職員紹介

退任職員紹介



山本 明希 専任職員

〔総務部人事課〕

平成26年12月31日付

約6年間甲南学園の職員として働かせていただき、誠にありがとうございました。温かいみなさまに支えられながら、さまざまな経験をさせていただきました。学生時代から10年間通った甲南学園を離れることはとても寂しいのですが、今後も元甲南学園職員、そして甲南OGとして、学園のさらなる発展を祈っています。



松本 由美子 専任職員

〔理工学部・知能情報学部事務局〕

平成26年12月31日付

甲南大学には、大学時代から数えると40年間通いました。ある意味、これでやっと甲南大学からの卒業といえるかもしれません。これから、新入生の気持ちで、セカンドライフを楽しみたいと思っています。最後に、大学にとって、ますます大変な時期になると思いますが、みなで力を合わせがんばっていきましょう。心から応援しております。また、いろいろ私を助けてくださったみなさまに心からお礼申し上げます。

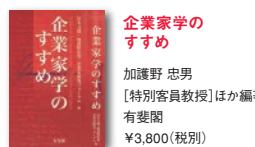


植村 亮介 専任職員

〔学生部〕

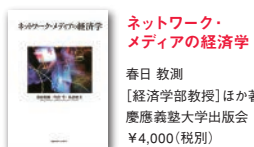
平成26年12月31日付

1975年4月の奉職から今日までの間、学生部や教務部、また阪神大震災の前後には高・中事務室にて多くの教職員に助け合うことができ、とても幸せな人生を送ることができました。伊藤忠兵衛元理事長の「ヨキコトハ サカエル」のことばとおり、学生や生徒にとって何が良の善なのかを考え、成長のお手伝いができたと思います。創立100周年を目前に退職するのは心残りではありますが、これまでお世話になったみなさまに心から感謝するとともに、未来の甲南学園の益々の発展とみなさまのご健康とご多幸を心から祈念いたします。



企業家学のすすめ

加藤 隆久
〔特別客員教授〕ほか編著
有斐閣
¥3,800(税別)



ネットワーク・メディアの経済学

春日 教訓
〔経済学部教授〕ほか著
慶應義塾大学出版会
¥4,000(税別)



スマート化する放送 ICT革命と放送の変容

春日 教訓
〔経済学部教授〕ほか著
三省堂
¥2,600(税別)



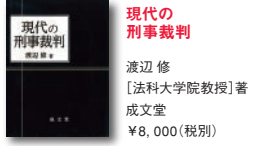
中堅・中小企業のアジア進出戦略「光と陰」

安積 敏政
〔経営学部特任教授〕著
日刊工業新聞社
¥3,000(税別)



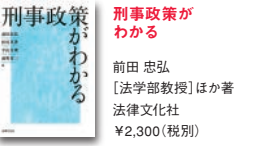
基本講義 刑事訴訟法

渡辺 修
〔法科大学院教授〕著
法律文化社
¥3,000(税別)



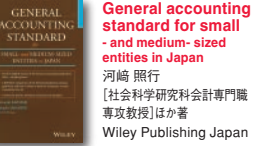
現代の刑事裁判

渡辺 修
〔法科大学院教授〕著
成文堂
¥8,000(税別)



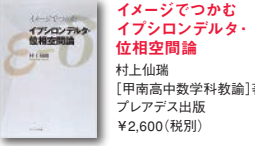
刑事政策がわかる

前田 忠弘
〔法学部教授〕ほか著
法律文化社
¥2,300(税別)



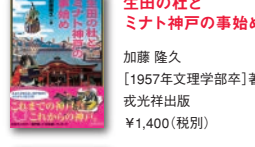
General accounting standard for small and medium-sized entities in Japan

河崎 照行
〔社会科学部研究科会計専門職専攻教授〕ほか著
Wiley Publishing Japan



イメージでつかむイノベーション・位相空間論

村上仙瑞
〔甲南高中数学科教諭〕著
ブレアデス出版
¥2,600(税別)



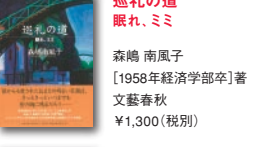
サクサク読んで単位を取得 サク単！微分積分

中西 祥彦
〔1969年自然科学研究科修了〕ほか著
東京図書 ¥2,200(税別)



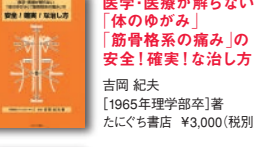
サクサク読んで単位を取得 サク単！線形代数

中西 祥彦
〔1969年自然科学研究科修了〕ほか著
東京図書 ¥2,200(税別)



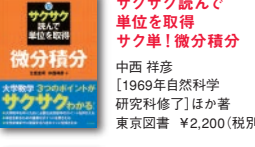
よみがえりの社と祭りのこころ

加藤 隆久
〔1957年文学部卒〕著
戎光祥出版
¥2,600(税別)



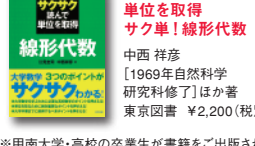
巡礼の道 眼、ミミ

森嶋 南風子
〔1958年経済学部卒〕著
文芸春秋
¥1,300(税別)



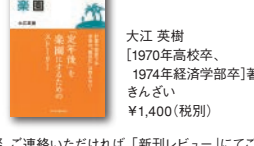
医学・医療が解らない「体のゆがみ」「筋骨格系の痛み」の安全！確実！な治し方

吉岡 紀夫
〔1965年理学部卒〕著
たにぐち書店 ¥3,000(税別)



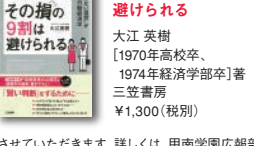
ぼくらの映画のつくりかた

根本 伸司
〔1979年理学部卒〕著
東京創元社
¥1,700(税別)



その損の9割は避けられる

大江 英樹
〔1970年高校卒、1974年経済学部卒〕著
三笠書房
¥1,300(税別)



無敵のエントリーシート・自己分析・自己PR・志望動機 2016年

本田 勝裕
〔1985年経営学部卒〕著
TAC出版
¥1,300(税別)

※甲南大学・高校の卒業生が書籍をご出版される際、ご連絡いただければ、「新刊レビュー」にてご紹介させていただきます。詳しくは、甲南学園広報部までお問い合わせください。

2015 Mar. NO. 47

甲南Today

発行日/2015年3月20日
発行/甲南学園広報部 〒658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9-1
TEL. (078) 431-4341(代)

PRESENT 抽選で20名様!

甲南オリジナル マイ箸セット

甲南カラーのオシャレなお箸。携帯用のロゴ入り袋つき。
ご希望の方は同封のアンケートはがきにまで応募ください。

応募締切:2015年5月22日到着分まで

水野正人氏が秋の叙勲にて旭日中綬章を受章されました。

平成26年秋の叙勲にて、ミスノ株式会社会長 水野正人氏(1962年甲南高等学校卒業、1966年甲南大学経済学部卒業、東京甲南会会長)に旭日中綬章が贈られました。水野氏は、元東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会副理事長、専務理事として、招致活動にご尽力されました。

芦屋「ギャラリー開雄」にて、サロンコンサートを開催しました。

2014年12月7日(日)、芦屋にある「ギャラリー開雄」をお借りし、ヴァイオリンとピアノによるコンサートを開催しました。本コンサートは、本学園の学生・生徒の保護者のみなさまからのご支援、ご協力に対する学園の感謝の気持ちを伝えるため開催。芦屋に100年の時を越えたたずむ洋館「ギャラリー開雄」は、オーナーを含めたご親族の多くが甲南学園(女子を含む)に通われ、演奏する曲目の作者である貴志康一氏と演奏をお願いした山中裕平氏は、甲南高等学校・中学校で過ごされました。このようなゆかりもあり、今回は高等学校・中学校の保護者を対象として開催しました。また、会場には貴志康一氏の描いた絵画も展示し、「甲南」の雰囲気に包まれたコンサートは、盛会に終わりました。

課外活動 成果報告 (敬称略)

みなさんのフアイトに心より拍手を送ります。

2014年5月~2014年11月

アーチエリート部

第49回全日本学生アーチエリート選手権(女子)(6月)

ベスト8

住吉大社全国弓道大会(5月)

男子団体 準優勝・小林睦(知)・沼田智幸(濱)

1・田中彪太(濱)

女子団体 第3位・岩山穂乃花(文2)・濱中彩花(文3)・春木かなえ(文4)

女子個人 準優勝・池田さとみ(文1)

全国大学弓道選抜大会(6月)

ベスト8

関西学生春季テニストーナメント(5月・6月)

上原伊織(法4)・男子シングルス優勝

※春季大会2連覇

【ゴルフ部】

関西アマチュアゴルフ選手権(5月)

森祐紀(文4)・第3位

関西学生男子春季23部校学校対抗戦(5月)

準優勝

関西学生男子秋季23部校学校対抗戦(8月)

優勝

【自動車部】

第二回全関西学生タートトライアル選手権大会(5月)

団体第2位

木村建登(當4)・第3位

全関西学生自動車運転競技選手権大会(5月)

木村建登(當4)・男子小型貨物の部 第2位

全日本学生タートトライアル選手権大会(8月)

団体優勝

岡翔太(當4)・優勝

志水研太(マネ3)・第4位

少林寺拳法部

関西学生大会(7月)

佐藤大輔(理3)・運用法男子軽量級の部 優勝

大河内裕也(文3)・運用法男子軽量級の部 第3位

寺内義晴(理3)・茅野拓太郎(當4)・男子中量級の部 第3位

水泳部

第88回関西学生選手権水泳競技大会

第50回関西女子学生選手権水泳競技大会

第90回日本学生選手権水泳競技大会関西支部予選会(7月)

清水一輝(濱2)・200m自由形 第1位

木下周哉(濱3)・200m背泳ぎ 第2位

飯山健太(濱1)・400m自由形 第3位

400mリレー 第3位・清水一輝(濱2)・藤岡裕樹(法3)・飯山健太(濱1)・濱崎洋介(法3)

↓一部昇格(男子)

卓球部

関西学生卓球リーグ戦(男子2部)(5月)

全勝優勝↓一部昇格

準硬式野球部

関西大会(5月)

全勝優勝

文部科学大臣杯 第66回全日本大学準硬式野球選手権大会(8月)

ベスト8

ボートセイリング部

関西新人大会第一戦(6月)

張本和生(法1)・準優勝

ヨット部

全日本ジュニアスナイプ級選手権大会(6月)

尾崎玄弥(法3)・優勝

関西学生ヨット女子選手権大会(6月)

吉栗実(當4)・奥田菜月(當3)組・470級 優勝

森千佳(當3)・萩野紗弥(法3)組・スナイプ級 第3位

関西学生ヨット夏季選手権大会(8月)

470級 第3位

スナイプ級 第3位

総合 第3位

ライフル射撃部

第61回全関西学生ライフル射撃選手権大会及び第20回春季全関西女子学生ライフル射撃選手権大会及び第9回春季全関西女子学生ライフル射撃選手権大会(5月)

長野寛史(法3)・男子初段の部 優勝

陸上競技部

第30回静岡国際陸上競技大会(5月)

山本有希子(文4)・女子走高跳 第6位

第91回関西学生陸上競技対校選手権大会(女子1部)(5月)

寺井美穂(當3)・女子100m 優勝

山本有希子(文4)・女子走高跳 第3位

女子4×100mR 優勝・寺井美穂(當3)・田中杏梨(文2)・志本夏波(當2)・味田彩乃(文4)

女子4×400mR 第3位・斎藤裕花(文4)・永野真莉子(當2)・寺井美穂(當3)・志本夏波(當2)

第1回木南道孝記念陸上競技大会(5月)

飯田郁未(當3)・女子一般100mハードル 第2位

日本学生陸上競技個人選手権大会(6月)

田中杏梨(文2)・女子100mハードル 第2位

山本有希子(文4)・女子走高跳 第2位

女子4×400mR 第3位・西山沙優(濱1)・永野真莉子(當2)・出口真美(知3)・斎藤裕花(文4)

秩父宮賜杯第67回西日本学生陸上競技対校選手権大会(7月)

田中杏梨(文2)・女子100mハードル 第2位

山本有希子(文4)・女子走高跳 第2位

女子4×400mR 第3位・西山沙優(濱1)・永野真莉子(當2)・出口真美(知3)・斎藤裕花(文4)

スポーツ愛好同好会

【軟式野球部】

関西六大学学生軟式野球連盟主催 春季リーグ戦(6月)

1位↓46年ぶり全国大会出場決定(個人タイトル)

最優秀選手・小林峻次(法2)

首位打者・寺本圭吾(當3)

盗塁王・笹田文郎(當3)

最優秀防御率・小林峻次(法2)

(ベストナイン)

投手・小林峻次(法2)

捕手・香山真悟(當3)

外野手・寺本圭吾(當3)・合田潤平(當3)

【日本拳法部】

第15回西日本学生拳法個人選手権大会(6月)

長野寛史(法3)・男子初段の部 優勝

高校

【書道部】

高野山親書大会

金剛寺賞 細道大河(2年)

【ラクビー部】

国民体育大会

第3位 兵庫県代表メンバーとして活躍 市村真紅郎(3年)

【ホッケー部】

近畿大会

第3位(5年ぶり)

【バスアンサンブル部】

スチューデントジャズフェスティバル

日本ジャズ教育協会会長賞 全国第3位

ナイスプレーヤー賞(個人賞) 三原雅司(2年)・村上和帆(2年)・前川優之介(1年)

国際ジュニア・ジャズ・オーケストラ フェスティバル Stellar Jam 2014

グランプリ賞(全国第1位)

【将棋部】

近畿総合文化祭男子選手権戦(11月)

第3位・長森優作(3年)

近畿総合文化祭A級個人戦(11月)

優勝・芦北夏雄(3年)

中学

【テニス部】

近畿総合体育大会

ダブルス優勝・梶原洋(3年)・西宮大地(3年)

全国中学生テニス選手権大会

団体優勝(5年ぶり) 5回目 最多優勝回数

数田司・梶原洋・西宮大地・高尾尚樹(中)・茶武本新平・岡本良太・清田慶師・近田賢祐・徳田和也

近畿私立中学校テニス大会

団体第3位 全国私立中学校テニス大会出場

【ゴルフ部】

関西中学校ゴルフ対抗戦団体戦

準優勝 全国大会出場権獲得